

# 令和3(2021)年度 事業報告

# 令和3(2021)年度事業報告

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1. 学校法人の概要               | P. 4  |
| (1) 法人の目的                |       |
| (2) 設置する学校・学部・学科等        |       |
| (3) 学校法人の沿革              |       |
| (4) 役員等の概要               |       |
| (5) 設置する学校の内容            |       |
| (6) 成城学園組織機構図            |       |
| 2. 中期計画「成城学園第2世紀プラン2021」 | P. 8  |
| (1) 中期計画 学園目標            |       |
| (2) 中期計画 進捗状況等           |       |
| 3. 事業の概要                 | P. 11 |
| 総括                       |       |
| I. 教育活動 大学               | P. 13 |
| 中学校高等学校                  | P. 24 |
| 初等学校                     | P. 30 |
| 幼稚園                      | P. 35 |
| II. 研究活動                 | P. 40 |
| III. 社会連携活動              | P. 44 |
| IV. 教育環境整備               | P. 48 |
| V. 財務計画                  | P. 52 |
| VI. 組織・運営体制              | P. 54 |
| 4. 財務の概要                 | P. 60 |
| 学生・生徒・児童・園児・教職員数         | P. 70 |

# 1. 学校法人の概要

## (1) 法人の目的

成城学園の創立者である澤柳政太郎は、文部次官や東北帝国大学・京都帝国大学総長などを歴任し、文部官僚として近代日本の教育制度の確立に大きく貢献しました。しかし、公立学校の教育に限界を感じ、退官後「本当の教育」を目指して、大正6(1917)年に私立の小学校を作りました。これが成城学園の始まりです。以来、一貫教育の実を挙げるべく順を追って総合学園へと発展し、創立から百余年を経て今日に至ります。その間、澤柳の目指した「建学の精神」のもと、様々な分野で個性豊かな有為の人材を数多く世に送り出し、社会の発展に貢献してまいりました。

将来の見通しが難しい混沌とした時代にあって、教育の使命はますます大きいものとなっています。成城学園は、幼稚園から大学・大学院までを擁する総合学園としてこの社会的使命に応えます。規模を求めず、少人数ならではの教育を堅持し、質の高い教育を実践することで、一人ひとりがしっかりとした自分を持ち、どのような時代、環境にあっても未来を切り拓いていける人材を育成します。

## 成城学園建学の精神

人生は真善美を理想とすると言われるが、学校は真理行なわれ道徳が通りまた美的の所でありたい。

### ●成城学園の理想

上述の文章は、大正15(1926)年、成城高等学校(旧制)の第一回入学式において澤柳政太郎が訓示の初めに述べた言葉です。真・善・美の理想が実現する社会、それがすなわち学校だという高い志を表しています。真理と道徳を重んじ、表裏なく気高く、しかも柔和な学生の育つ学校を目指しました。学校を理想の小社会としてとらえた澤柳は、「ウソイツワリ」を強くしりぞけ、品格のある生活の実現を求めました。

### ●成城学園の教育

澤柳政太郎は、人それぞれの備えている内在的な「天分」を伸ばし、個性の花を開かせることを教育の理想としました。それを実現するために、成城小学校の設立に際しては「個性尊重の教育」「自然と親しむ教育」「心情の教育」「科学研究を基とする教育」の四つの綱領を掲げました。

そして、児童・生徒・学生には自学自習・自治自律を学びの基本的姿勢として求め、また、教師は教育者であり同時に研究者たるべしという考えのもと、実際に即した教授法の研究を推進しました。

### ●成城学園の育む人間像

澤柳政太郎は、正直、真面目という道徳を身につけ、個人の「天分」を熱心かつ旺盛に伸ばした結果、知性・心情ゆたかで意志強固な「独立独行」の社会人になることを願いました。自分の信じる道を、自分で開いて往く、この青年の「独立独行」こそ、次なる社会を開く力であると信じました。

フェアプレイの精神を持ち、美的生活を心がける「教養ある紳士淑女」になることと同時に、変わりゆく世界の中で「独創力」を持った奮起する人間となることをさらに期待しました。

## (2) 設置する学校・学部・学科等

- 成城大学 大学院経済学研究科 経済学専攻、経営学専攻  
大学院文学研究科 国文学専攻、英文学専攻、日本常民文化専攻、美学・美術史専攻  
コミュニケーション学専攻、ヨーロッパ文化専攻
- 大学院法学研究科 法律学専攻
- 大学院社会イノベーション研究科 社会イノベーション専攻
- 経済学部 経済学科、経営学科
- 文芸学部 国文学科、英文学科、芸術学科、文化史学科  
マスコミュニケーション学科、ヨーロッパ文化学科
- 法学部 法律学科
- 社会イノベーション学部 政策イノベーション学科、心理社会学科
- 成城学園高等学校
- 成城学園中学校
- 成城学園初等学校
- 成城幼稚園

## (3) 学校法人の沿革

|                |                                                  |
|----------------|--------------------------------------------------|
| 大正 6 (1917) 年  | 成城小学校創設 (元：東京市牛込区原町)                             |
| 大正 11 (1922) 年 | 成城第二中学校開設                                        |
| 大正 14 (1925) 年 | 財団法人成城学園設立認可<br>成城幼稚園開設、学園を府下砧村 (現：世田谷区成城) に移転   |
| 大正 15 (1926) 年 | 成城高等学校 (旧制七年制) 開設、成城第二中学校廃止                      |
| 昭和 2 (1927) 年  | 成城高等女学校開設                                        |
| 昭和 16 (1941) 年 | 成城小学校を成城初等学校に改称                                  |
| 昭和 22 (1947) 年 | 成城学園中学校 (男女共学) 開設、成城初等学校を成城学園初等学校に改称             |
| 昭和 23 (1948) 年 | 成城学園高等学校 (男女共学) 開設、成城高等女学校廃止                     |
| 昭和 25 (1950) 年 | 成城大学創設、経済学部・理学部設置、成城高等学校 (旧制七年制) 廃止              |
| 昭和 26 (1951) 年 | 学校法人成城学園認可                                       |
| 昭和 29 (1954) 年 | 成城大学文芸学部・短期大学部設置、理学部廃止                           |
| 昭和 42 (1967) 年 | 成城大学大学院経済学研究科・文学研究科設置<br>成城学園創立 50 周年、五十周年記念講堂完成 |
| 昭和 52 (1977) 年 | 成城大学法学部設置                                        |
| 昭和 53 (1978) 年 | 成城大学短期大学部を成城短期大学に名称変更                            |
| 昭和 61 (1986) 年 | アルザス成城学園中等部・高等部開設                                |
| 昭和 62 (1987) 年 | 成城大学大学院法学研究科設置<br>伊勢原総合グラウンド・合宿所開設               |
| 平成 6 (1994) 年  | 成城短期大学を成城大学短期大学部に名称変更                            |
| 平成 15 (2003) 年 | アルザス成城学園中等部廃止                                    |
| 平成 17 (2005) 年 | 成城大学社会イノベーション学部設置、アルザス成城学園高等部廃止                  |
| 平成 19 (2007) 年 | 成城大学短期大学部閉学                                      |
| 平成 21 (2009) 年 | 成城大学大学院社会イノベーション研究科設置                            |
| 平成 29 (2017) 年 | 成城学園創立 100 周年                                    |

## (4) 役員等の概要 (令和4年3月31日現在)

### 構成

|     |                                      |  |
|-----|--------------------------------------|--|
| 理事  | 定数 12 ～ 14 人<br>実数 11 人 (常勤6人、非常勤5人) |  |
| 監事  | 定数 3 人<br>実数 3 人 (常勤1人)              |  |
| 評議員 | 定数 47 ～ 51 人<br>実数 49 人              |  |

### 役員

|      |                 |        |
|------|-----------------|--------|
| 理事長  | 油井 雄二           |        |
| 常務理事 | 油井 雄二 (学園長)     |        |
|      | 磯田 裕治           |        |
| 理事   | 戸部 順一 (大学学長)    |        |
|      | 山本 輝之 (学部長互選)   |        |
|      | 渡辺 共成 (校(園)長互選) |        |
|      | 池田 純一 (法人事務局長)  | 以上、常勤  |
|      | 浅谷 佳代           |        |
|      | 加藤 彰            |        |
|      | 小嶋 隆            |        |
|      | 納谷 廣美           |        |
|      | 細田 泰            | 以上、非常勤 |
| 監事   | 山下 祐司           | 常勤     |
|      | 西村 健            |        |
|      | 村本 孜            | 以上、非常勤 |

※ 1. 非常勤役員と責任限定契約を締結。

※ 2. 全役員を被保険者とする役員賠償責任保険契約に加入。

# 1. 学校法人の概要

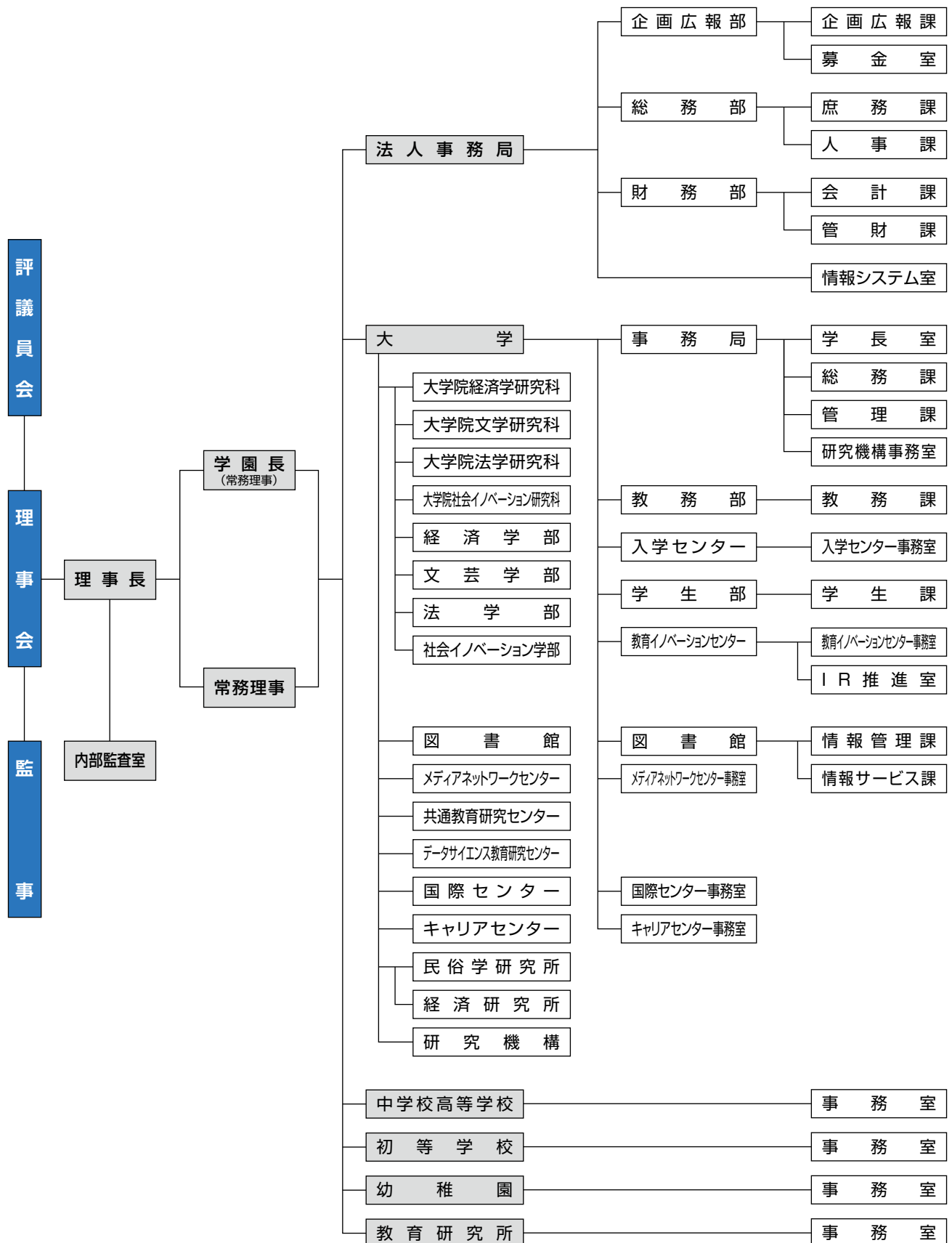
## (5) 設置する学校の内容

(令和3年5月1日現在、単位 人)

| 学 校 名                  | 学部・学科等                        | 学生・生徒・児童・園児数 |       |       | 専任教職員数 |     |
|------------------------|-------------------------------|--------------|-------|-------|--------|-----|
|                        |                               | 入学定員         | 収容定員  | 現 員   | 教 員    | 職 員 |
| 成城大学<br>学長 戸部 順一       | [大 学 院]                       |              |       |       |        |     |
|                        | 経済学研究科経済学専攻博士課程前期             | 10           | 20    | 0     |        |     |
|                        | 経済学研究科経営学専攻博士課程前期             | 10           | 20    | 13    |        |     |
|                        | 経済学研究科経済学専攻博士課程後期             | 5            | 15    | 0     |        |     |
|                        | 経済学研究科経営学専攻博士課程後期             | 5            | 15    | 2     |        |     |
|                        | 文学研究科国文学専攻博士課程前期              | 10           | 20    | 5     |        |     |
|                        | 文学研究科英文学専攻博士課程前期              | 10           | 20    | 3     |        |     |
|                        | 文学研究科美学・美術史専攻博士課程前期           | 10           | 20    | 10    |        |     |
|                        | 文学研究科日本常民文化専攻博士課程前期           | 10           | 20    | 13    |        |     |
|                        | 文学研究科コミュニケーション学専攻博士課程前期       | 10           | 20    | 4     |        |     |
|                        | 文学研究科ヨーロッパ文化専攻博士課程前期          | 10           | 20    | 2     |        |     |
|                        | 文学研究科国文学専攻博士課程後期              | 5            | 15    | 1     |        |     |
|                        | 文学研究科英文学専攻博士課程後期              | 5            | 15    | 1     |        |     |
|                        | 文学研究科美学・美術史専攻博士課程後期           | 5            | 15    | 9     |        |     |
|                        | 文学研究科日本常民文化専攻博士課程後期           | 5            | 15    | 2     |        |     |
|                        | 文学研究科コミュニケーション学専攻博士課程後期       | 5            | 15    | 1     |        |     |
|                        | 文学研究科ヨーロッパ文化専攻博士課程後期          | 5            | 15    | 3     |        |     |
|                        | 法学研究科法律学専攻博士課程前期              | 10           | 20    | 3     |        |     |
|                        | 法学研究科法律学専攻博士課程後期              | 5            | 15    | 0     |        |     |
|                        | 社会イノベーション研究科社会イノベーション専攻博士課程前期 | 10           | 20    | 9     |        |     |
|                        | 社会イノベーション研究科社会イノベーション専攻博士課程後期 | 4            | 12    | 1     |        |     |
|                        | 大 学 院 計                       | 149          | 347   | 82    |        | 127 |
|                        | [大学学部]                        |              |       |       |        |     |
|                        | 経済学部                          | 360          | 1,440 | 1,562 | 36     |     |
|                        | 経済学科                          | 180          | 720   | 781   |        |     |
|                        | 経営学科                          | 180          | 720   | 781   |        |     |
|                        | 文芸学部                          | 375          | 1,500 | 1,621 | 55     |     |
|                        | 国文学科                          | 60           | 240   | 261   |        |     |
|                        | 英文学科                          | 75           | 300   | 330   |        |     |
|                        | 芸術学科                          | 60           | 240   | 255   |        |     |
|                        | 文化史学科                         | 60           | 240   | 263   |        |     |
|                        | マスコミュニケーション学科                 | 60           | 240   | 253   |        |     |
|                        | ヨーロッパ文化学科                     | 60           | 240   | 259   |        |     |
|                        | 法学部                           | 240          | 960   | 1,142 | 27     |     |
|                        | 法律学科                          | 240          | 960   | 1,142 |        |     |
|                        | 社会イノベーション学部                   | 240          | 960   | 1,081 | 29     |     |
|                        | 政策イノベーション学科                   | 120          | 480   | 549   |        |     |
|                        | 心理社会学科                        | 120          | 480   | 532   |        |     |
|                        | 大学学部 計                        | 1,215        | 4,860 | 5,406 | 147    |     |
| 成城学園高等学校<br>校長 中村 雅 浩  | 全日制課程                         | 276          | 828   | 855   | 53     | 4   |
| 成城学園中学校<br>校長 中村 雅 浩   |                               | 240          | 720   | 724   | 44     | 7   |
| 成城学園初等学校<br>校長 渡 辺 共 成 |                               | 114          | 684   | 646   | 37     | 7   |
| 成城幼稚園<br>園長 国 府 君 江    |                               | 40           | 120   | 120   | 12     | 2   |
| 法人事務局                  |                               |              |       |       |        | 41  |
| 合 計                    |                               | 2,034        | 7,559 | 7,833 | 293    | 188 |

## （６）成城学園組織機構図

(令和4年3月31日現在)



## 2. 中期計画「成城学園第2世紀プラン2021」(2021～2023年度)

## (1) 中期計画 学園目標

いつの時代にも「質の高い教育」を実践し「変える力」を育みます。

## 重点事項

- ・三本柱(国際・理数系・情操・教養)のさらなる充実・深化
- ・ワンキャンパス、一貫校を生かした特色の強化(他校との差別化)
- ・学校間の連携強化

## I. 教育活動「求める生徒・学生像／育成する人材」

|         | 求める生徒・学生像                                                                                                                                                                                                | 育成する人材                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学      | 知識・技能<br>(i) 高等学校の教育課程を通じて、大学での学修に必要な基礎学力を修得している者<br>思考力・判断力・表現力<br>(i) 経済・社会・文化・歴史や人間に対して旺盛な関心を持ち、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明することができる者<br>主体性・多様性・協働性<br>(i) 多様な文化・価値観の違いを認識し、他者を尊重し、主体的に協働する意欲を持つ者 | 知識・技能<br>(i) 幅広い教養及び各学部・学科の専門知識・技能を身につけることで、筋道を立てて物事を俯瞰的に把握し、課題を発見・解決することができる<br>思考力・判断力・表現力<br>(i) 社会の諸事象について主体的かつ総合的に判断できる能力を身につけている<br>(ii) 国際的な視野から世界と日本を見つめ、グローバル社会を生き抜くためのコミュニケーション能力を身につけている<br>主体性・多様性・協働性<br>(i) 豊かな人間性を持ち、多様な人々と協力して社会に貢献する意欲と能力を身につけている |
| 中学校高等学校 | (i) 好奇心と知識欲が旺盛で、全ての個性と価値観を受け入れる心の自由さを持つ人<br>(ii) 自分の限界を決めず、新しいものに挑戦しようとする創造力と行動力を持つ人<br>(iii) 人とのつながりの中で学び、コミュニケーションを生み出す力を持つ人<br>(iv) 「自学自習・自治自律」という本校の教育方針に基づく教育内容を理解し、学ぶ意欲を持つ人                        | (i) 様々な体験を通して得た深い教養を、自己変革と社会における課題解決につなげる力を持つ人<br>(ii) グローバル社会の中で、個としての価値観を持ち、社会に能動的に関わる意欲を持つ人<br>(iii) 英語を使って論理的に考え、議論する力を持つ人<br>(iv) 自らの課題発見とその解決のために、デジタルの力を有効活用できる人                                                                                            |
| 初等学校    | 子どもらしい子ども<br>(i) 心身ともに、健康な子ども<br>(ii) 情操豊かで、想像力あふれる子ども<br>(iii) 友達と仲よく遊び、思いやりのある子ども<br>(iv) 自分で考え、意欲的に生活に取り組む子ども<br>(v) 人の話に耳をかたむけられる子ども                                                                 | 次に掲げる4つの資質・能力を身につけた子<br>(i) 人とのつながりを大切にし、全ての個性と価値観を受け入れる、ひらかれた心<br>(ii) 自然をはだで感じられる、健やかでたくましい心身<br>(iii) 想像力、表現力を持ち、積極的に自己表現できる力<br>(iv) 知的好奇心を持ち、何事にも意欲的に取り組む力                                                                                                    |
| 幼稚園     | (i) 「楽しい」と感じることを、多く体験している子ども<br>(ii) 人が大好きな子ども<br>(iii) 様々な活動において「がんばろう」という気持ちがある子ども                                                                                                                     | 幼稚園の学びで育つ「5つの力」を身につけた子ども<br>(i) 自分の考え、感情に気付き、表現する力<br>(ii) 自分を愛する力<br>(iii) 人の気持ち、考え方を理解し、思いやる力(コミュニケーション能力)<br>(iv) 計画的に物事に粘り強く取り組む力(前向きな耐性)<br>(v) 自分で発見する力                                                                                                      |



## I. 教育活動「特色ある教育」

教育改革三本柱を核とした一貫教育を深化させ、質の高い教育を実践する。

## (A) 国際教育

## (a) 語学教育

日本語を母語としない人々と流暢でなくとも自分の考えをしっかりと伝え、また、相手の主張を理解できる語学力とりわけ英語力を身につける。

国際会議に参加し討論できる英語力が身につくことを理想とする。

## (b) 国際交流

文化的背景の異なる人々との交流を通して、わが国の文化とともに異文化の理解を深める。

## (B) 理数系教育

## (a) 論理的思考力

プログラミング的思考を通して論理的思考力を身につけ、自分の意見をしっかりと言えるディスカッション力をつける。

## (b) デジタルスキル

ICT機器活用能力にとどまらず、情報化社会で必要とされる様々な情報活用能力を身につける。

## (c) 科学教育・環境教育

恵まれた自然環境と充実した設備を生かした教育の実践。

## (C) 情操・教養教育

学園伝統の情操・教養教育を深めていく。

加えて、情報や情報化社会に対する理解といった新時代の教養も深め、高い人間性を育てる。

## II. 研究活動

学術研究を発展させ、教育研究の実践と深化を図る。

## III. 社会連携活動

教育研究成果の社会還元や地域交流はもちろんのこと、防災・防犯等についても改めて地域（世田谷区、成城地区）との連携を見直し、強化する。

## IV. 教育環境整備

新しい教育手法に対応できる環境を整備する。

## V. 財務計画

中期計画に基づく財務計画の立案・執行。

## VI. 組織・運営体制

## 1) 新時代に対応できる教職員の育成

学校が生き残るために、学校も変わり、それを支える教職員も「変える力」を持つ。

## 2) 安全な学園（防災、防犯、感染症対策）

子どもの安全を第一に考えた体制の再確認。

## 3) ガバナンス体制の強化

中期計画のPDCAサイクルの徹底（私立大学連盟のガバナンスコードに基づいたサイクルの実現）。

## 4) 広報戦略

少子化時代の志願者の「数」と「質」の確保（発信の手段と内容の改革）。



## 2. 中期計画

### (2) 中期計画 進捗状況等

今や時代は、グローバル化の進展と変容や価値観の多様化、地球環境の悪化など、大きな転換点にあります。さらに地球規模で拡散した新型コロナウイルスの感染、そして地政学上のリスクの高まりは、将来について見通すことをますます難しくしています。この混沌とした時代にあって、一人ひとりの洞察力や行動力、対応力を育む教育の使命は、いよいよ大きいと言わなければなりません。

成城学園は、幼稚園から大学・大学院までを擁する総合学園として、各校が連携してこの社会的使命に応えるべく、規模を求めず、少人数ならではの教育を堅持し、今まで以上に質の高い教育の実践を通して、一人ひとりがしっかりと自分をもち、どのような時代、環境にあっても未来を切り拓いていける人材を育成します。

そのために、建学の精神をあらためて確認し、私学の中でも独自の存在となるべく、「第2世紀ビジョン」を制定し、その実現に向けた具体策として「成城学園第2世紀プラン」\*1、さらにそれを深化させる形で「成城学園第2世紀プラン2021」\*2を定め、実践しております。

※1「成城学園第2世紀プラン」＝第一次中期計画(平成29(2014)～令和2(2020)年度)

※2「成城学園第2世紀プラン2021」＝第二次中期計画(令和3(2021)～令和5(2023)年度)

しかし、第二次中期計画を策定中に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、本学園も休校を余儀なくされるなど、教育のあり方へ大きな変化をもたらしました。

そのため、現行の第二次中期計画は、当初5ヶ年の予定を3ヶ年に短縮し、社会の変化に対処・対応する期間、あるいはその先の社会状況を見極めるための期間という位置づけで計画を立案し、現在に至っております。

第二次中期計画1年目となる令和3年度には、コロナ禍によって、国際交流や地域交流だけでなく、日常の教育においても、人と人との交わりに大きな制約が生じました。これは、創立以来、人と人のつながりを重視し、授業とともに様々な学校行事を大切にしている成城教育にとって大きな試練でした。本事業報告では、こうした課題に各校がどう取り組み、克服しようとしたかが記述されています。

コロナ禍は、教育や学校のあり方を問い直していますが、「いつの時代にも『質の高い教育』を実践し、未来を切り拓いていける人を育てる」という学園の使命は変わりませんし、その使命を見失ってははいけません。

まだこの先の社会状況が見通せているとは言えません。引き続き社会の変化に対処・対応しつつ、第2世紀の成城教育を向上させる施策を続けていく所存です。

成城学園理事長 油 井 雄 二

## 3. 事業の概要

### 総括

2年目に入ったコロナ禍により、学園はほぼ1年を通して「緊急事態宣言」あるいは「まん延防止重点措置」という制約の多い中で活動となった。それでも各校は、遠隔授業や代替案での活動など「学びを止めない」ことに努めた。

未達だった事業は、コロナ禍の影響により実施できなかったものが大半を占める。特に留学や宿泊行事、対面で行うべき行事などは多大な影響を受けた。

その一方で、オンラインでの海外交流が盛んに行われた。これは、コロナ禍収束後の国際交流プログラムにも取り入れることができる有意義な取り組みであった。

こうしたコロナ禍の代替手段としてだけでなく、ICT活用が著しく進展した。子どもに対するICT機器の影響については今後も検討が必要であるが、学習アプリの活用など成果を上げているものもあり、子どもの成長段階に応じたICT活用は今後も拡充させていきたい。

以下、特筆すべき点を列挙する。

### I. 教育活動

#### (A) 国際教育

- 大 学：外国語（イタリア語、韓国語、スペイン語）のスタディーツアーなどはコロナ禍で実施できなかったが、オンラインを活用した海外インターンシップの取り組みや海外留学増を目指したプログラムを着実に実施した。
- 中 高：生徒がe-learning用アプリを日常的に利用し、教育効果が現れている。また、オンラインでの海外校との交流授業を複数実施した。
- 初 等：英語授業の週1時間増（3h／週）を導入する令和4年度からの時間割を編成した。また、Zoomを利用して海外の小学校との交流を実施した。
- 幼稚園：コロナ禍の影響で予定回数は実施できなかったものの、中高のネイティブ教員が参加する事業を計画し、園児のコミュニケーション力向上につなげた。

#### (B) 理数系教育

- 大 学：データサイエンス教育の新カリキュラムが、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定された。また、連携協定を結んだ公立はこだて未来大学の大学院生をデータサイエンス科目のTA（ティーチング・アシスタント）に採用してオンラインで授業支援を行う取り組みを行った。
- 中 高：課外教室などはコロナ禍で実施できない面もあったが、PBL（課題解決型学習）を積極的に展開した。また、多くの授業でICT活用が進展し、質量ともにICT活用が向上した。
- 初 等：筋道立てて考察・説明する経験を積むという中期計画の目標に向け、理数系教科ではカリキュラムを改訂し、計画通り、試行・検証している。
- 幼稚園：タブレットを使用する際の約束事を園児に伝えるなど、発達段階相応のICT利用を進めている。

#### (C) 情操・教養教育

- 大 学：各学生サポーターが、オンラインツールなどを活用し、各種サポーター活動を展開した。これらの活動は日本学生支援機構の報告書において、参考となる先進事例として評価され紹介された。
- 中 高：コロナ禍の制限下で、企画や発表の場を工夫して実施した。
- 初 等：情操・教養教育の面でもICTが活用された。
- 幼稚園・初等：劇の会、音楽会などの表現の場も、コロナ禍で例年とは異なる形態を模索しながら実践した。

### 3. 事業の概要

#### Ⅱ. 研究活動

大 学：民俗学研究所・経済研究所・グローバル研究センターの研究プロジェクトの活性化を図るという事業目的の中で、MOU締結の拡充については、未達となった。

幼・初・中高：各校の抱える課題を解決するための研修や研究が計画的に行われた。学園として、教員が「教育を研究する」ということを改めて推進していきたい。

#### Ⅲ. 社会連携活動

大 学：社会に向けたオンデマンド型「成城 学びの森 コミュニティー・カレッジ」は多くの受講者を得て、社会貢献事業として大きな成果があった。また、個々の授業や委員会活動などでは他校や地域との連携の機会を作ったが、大学全体としての取り組みは少なかった。

幼・初・法人事務局：コロナ禍の影響を大きく受けている。体験授業やボランティア活動、恐竜・化石ギャラリーなどの学内資産の公開など、多くの計画が実践できていない。

#### Ⅳ. 教育環境整備

学園全体として、一部実施できなかった箇所もあるが、バリアフリー化が大きく進展した。また、オンライン教育に向けた環境整備が順調に進展した。中長期視点での修繕計画も策定し、安全・安心な教育環境の整備を推進した。

初等学校では、3年生以上の児童に1台ずつiPadを導入し、コロナ禍のオンライン学習で効果を上げた。

#### V. 財務計画、Ⅵ. 組織・運営体制

財務計画のほか、組織・運営体制は「新時代に対応できる教職員の育成」「安全な学園（防災、防犯、感染症対策）」「ガバナンス体制の強化」「広報戦略」という観点から中期計画を立て、学園全体としては概ね順調に進んでいる。

また大学は、令和4年度に認証評価を受審するため、「自己点検・評価報告書」を完成させ、大学基準協会に送付した。

## I. 教育活動 特色ある教育

## ■ 大 学

## (A) 国際教育 (a) 語学教育

## 中期計画目標

異文化交流を円滑に行える語学力を身につけることを目標とする。  
特に海外留学の際に求められる英語能力については、本学が協定を結ぶ英語能力が必要な交換留学先のいずれの大学にも留学可能な IELTS 6.0 ないし 6.5 程度の語学力修得を目標とする。

## 中期計画取り組み

① 2021 年度より本格的な供用開始となる大学 9 号館国際センター施設（国際交流ラウンジ）の活用。

| 事業計画                                                                                                                                      | 事業報告                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際交流ラウンジを在學生や受入交換留學生に利用してもらうために、国際センター関連科目（受入交換留學生用の日本語科目群や SIEP 科目）の一部、及び課外授業の「毎日英会話」を、国際交流ラウンジに隣接する小教室群で行い、在學生と留學生が交流ラウンジで常時交流できるようにする。 | 【未達：進捗率 70%】<br>対面授業が再開したことにより、ラウンジを利用した説明会等を実施しているものの、コロナ禍における政府の水際対策により、留學生の入国が禁止されていたため、在學生と留學生との対面の交流には至っていない。 |

## 中期計画取り組み

② SIEP（成城国際教育プログラム）の充実。  
IELTS の高得点獲得者数を増加させ、バリュー大学をはじめとする、交換留学協定校への留学をより活性化する。

| 事業計画                                             | 事業報告                                                                                           |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際センターに所属する専任教員を増員したことによる IELTS の高得点獲得者数への影響を検証。 | 2 名の専任教員が、学長裁量経費「教育改革推進特別事業」を利用した特別指導を行っているが、対象学生の IELTS スコアの結果を待っているところであり、その結果を見て検証を行うこととする。 |

## (A) 国際教育 (b) 国際交流

## 中期計画目標

異文化理解に努める国際人の育成を目標とする。

## 中期計画取り組み

① 海外体験の促進として、スタディーツアー（海外短期語学研修として実施）の充実。（コロナ禍収束を前提とする）

| 事業計画                                              | 事業報告                                                   |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 履修可能な外国語である、スペイン語、イタリア語、韓国語によるスタディーツアーのプロトタイプを実施。 | 【未達：進捗率 20%】<br>実施予定先のめどは立てていたものの、コロナ禍により今年度の実施は中止とした。 |

## 中期計画取り組み

② 海外体験の促進として、国際 PBL（Project Based Learning）の導入の検討。（コロナ禍収束を前提とする）

| 事業計画          | 事業報告                  |
|---------------|-----------------------|
| 他大学での取り組みを調査。 | 本学と関係する複数の大学の状況を調査した。 |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

- ③ICTツールを用いて海外の大学に所属する学生と様々なプロジェクトを実施できるオンライン国際交流学習プログラム COIL (Collaborative Online International Learning) 及びオンライン留学の実施。

| 事業計画                                                                                                          | 事業報告                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| オンラインを利用した国際研究、海外留学実施の可能性を調査・検討(現在、ニューカッスル大学の「日英クラブ」と国際交流サポーターとの間で、オンライン・イベントを実施中であり、この課外活動を2021年度には活性化する予定)。 | COILに関する複数のセミナーに参加し、状況把握や、実施に必要な情報などを収集した。<br>また、今年度において外国大学の学生とのオンラインでの交流は9回行った。 |

#### 中期計画取り組み

- ④海外インターンシップの拡充。(コロナ禍収束を前提とする)

| 事業計画                                                                                                                                   | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の検証。</li> <li>・東南アジアを中心に海外インターンシップを継続して実施する。</li> <li>・新規海外インターンシップのプログラム開発を検討する。</li> </ul> | <p>今年度海外インターンシッププログラムは中止とし、代替プログラムとして「成城グローバルキャリアプログラム」(オンライン)を立案して実施した。</p> <p>また、2022年2～3月に、ベトナム、カンボジア、マレーシア各国でのオンラインによる業者委託プログラムの実施を決定し参加者を募集したが、結果として応募者はいなかった。</p> <p>なお、2022年の夏季休暇期間中のプログラムについては、東南アジア、米国及びオーストラリア等でリアルまたはオンラインで実施すべく、国際センターと情報を共有しながら、業者委託プログラム導入の検討を進めた。</p> |

#### (A) 国際教育 中期計画以外の事業計画

経済学部：第2外国語教育の充実と留学促進のための留学報告会の開催

| 事業計画                                                                                                                             | 事業報告                                   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|
| 経済学部では第2外国語の履修が必修であり、ドイツ語、フランス語、中国語の中からいずれかを選択することになっている。これら3言語圏について上級生による留学報告会を1年次対象に試行的に開催する(英語圏の留学報告会については2019年度から毎年開催されている)。 | <p>【未着手】</p> <p>今年度はコロナ禍で実施できていない。</p> |

文芸学部：語学教育

| 事業計画                                                                                                                                                                                    | 事業報告                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語カリキュラムSEEの教育効果をさらに上げるために、2018年度より統一教材として導入したe-learningツールを継続的に使用し、学部国際教育を深化させる。</li> <li>・イタリア語担当の専任教員採用に伴い、文芸学部におけるイタリア語教育を充実させる。</li> </ul> | イタリア語については、文法解説担当、練習問題担当、会話担当教員の分担制とし、授業では語学と同時に文化も総合的に理解できるよう教材を充実させた。 |



法学部：令和元（2019）年度より導入された語学カリキュラムによる授業実施について

| 事業計画                                                                                                           | 事業報告                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021年度も、授業の実施状況、とりわけオンラインを利用・併用した授業の実施状況を検証し、学生の学習状況・学習効果等の点で改善すべき問題点の把握を行うとともに、個々の授業の改善に向けた取り組みについて引き続き検討を行う。 | 学部教務委員会において、授業の実施状況、とりわけコロナ禍におけるオンラインを利用・併用した語学授業の実施について、授業の実施状況を検証し、改善すべき問題点の把握、及びそれを踏まえた個々の授業内容の改善に向けた今後の具体的な取り組みについて検討を行い、授業担当者を中心に遠隔授業における会話練習の困難な点や対面授業を遠隔授業に切り替える際の問題点等について情報共有を行った。 |

社会イノベーション学部：英語コミュニケーション能力をより高めるための教育内容と方法の検討

| 事業計画                                                                                                                   | 事業報告                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 遠隔授業と対面授業の実施内容の検討、各授業科目での学生の英語力の伸長状況の把握、TOEICを中心とした外部試験の成績の検討などを行い、これらの結果を踏まえ、英語カリキュラムの点検ならびに必要な応じて外部試験の水準点について見直しを行う。 | 今年度前期の成績と昨年度の成績の比較を行い、対面式が主となった今年度前期は、コロナ禍以前と同様にガイドラインにかなり近づいた評価が行われていることを確認した。今年度も含めた過去3年間の1、2年次のTOEICのスコアを比較した結果、大きな変化は認められなかった。来年度、さらに詳細な分析を行う。英語の選択科目については、中級・上級レベルの学生が履修しやすい、幅広い題材を扱う科目を設定する方向が定まった。 |

国際センター

| 事業計画                                                                                          | 事業報告                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国際学生寮「アミスタ南烏山」に本学が受け入れる全ての交換留学生を居住させ、そこに住む本学の学生が外国人と生活を共にすることにより、国際コミュニケーション能力、多様性、語学力の向上を図る。 | 政府の水際対策が解除されたため、3月中旬から徐々に交換留学生の受け入れが可能となり、3月中には11名全ての留学生が入居を完了し、寮内で食事を共にしたり、ゲームをしたりと、共同生活を始めることができた。 |

## (B) 理数系教育 (a) 論理的思考力

### 中期計画目標

非理を忌避する姿勢を身につけることを目標とする。

### 中期計画取り組み

①論理的言語操作を修得するために、WRD等の共通教育科目群にディベート力強化の要素を明確に加える。

| 事業計画                 | 事業報告                                                                                                                                             |
|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| WRDの新教科書の企画・作成に取り組む。 | 2021年度学長裁量経費による「教育改革推進特別事業」追加募集への申請が受理されたことを受け、WRD問題集・教授資料に必要な取材と写真撮影を行い、2022年1月13日の編集会議を経て、3月末にWRD問題集と教授資料が納品された。必修である文芸学部では4月初旬の学科ガイダンスで配付される。 |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

- ②「人文・社会科学系学部が学ぶべきデータサイエンス」というコンセプトに基づいた新カリキュラムの構築を目指す。

| 事業計画                       | 事業報告                                     |
|----------------------------|------------------------------------------|
| データサイエンス教育科目群のカリキュラム改革を検討。 | カリキュラム改革の検討は終了し、新カリキュラムを2022年度入学者から開始する。 |

#### (B)理数系教育 (b)デジタルスキル

##### 中期計画目標

- データサイエンス(DS)を中心に、情報活用能力の修得を目標とする。

#### 中期計画取り組み

- ①2021年度より本格的な供用開始となる大学9号館データサイエンス教育研究センター内の空間「データサイエンス・スクエア」の活用を通じて、学生の正課外活動としてのデータサイエンス研究を支援する。

| 事業計画            | 事業報告                                                                                   |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| TA制度による学生支援の拡充。 | 公立はこだて未来大学との協定の一環として、2つの科目で公立はこだて未来大学の大学院生を計6名、ティーチング・アシスタントとして採用し、オンラインにより授業支援等を実施した。 |

#### 中期計画取り組み

- ②学内DSコンテストの創設。  
③資格取得・学外DSコンテスト参加支援等の充実。

| 事業計画                                                                                         | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>学内DSコンテストの実施。</li> <li>DS関連資格取得のための講習会の実施。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回学内DSコンテスト「成城大学データサイエンス・コンテスト2021」を開催した。DSコンテストのエントリー総数は20組54名であった。1次審査により決勝戦進出3組が選出され、11月13日に決勝戦を行った。</li> <li>DS関連資格取得のための講習会の実施としては、一般社団法人日本ディープラーニング協会の「G(ジェネラリスト)検定」合格に向けた講習会を全4回で実施した。11月6日に行われたG検定試験には、受講者の内6名が受験し、その全員が合格した。</li> </ul> |



第1回学内DSコンテスト「成城大学データサイエンス・コンテスト2021」決勝戦



## (B) 理数系教育 中期計画以外の事業計画

経済学部

| 事業計画                                                                                                                                              | 事業報告                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| データサイエンス教育研究センターでのデータサイエンス教育科目群のカリキュラム改革の検討に合わせて、経済学部でもカリキュラムへのデータサイエンス教育科目群のさらなる取り込み（既にデータサイエンス教育科目群の単位は全て経済学部の卒業要件単位に算入できるようになっている）について検討を開始する。 | 経済学部においては、データサイエンスの旧カリキュラムは、全て卒業要件単位として認定されている。新カリキュラムについても、同じく全て卒業要件単位として認定する。 |

## (C) 情操・教養教育

## 中期計画目標

自己の個性を伸ばし、かつ他者の個性を尊重する姿勢の学びを通じ、協働性に富む人材の育成を目標とする。

## 中期計画取り組み

①正課外活動による情操教育の構築を目指す。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                  | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア、国際交流、キャリア、ライブラリー、バリアフリーの各サポーターの現状から、課題の抽出と改善に向けた検討を行う。</li> <li>・各サポーターのミーティングルームを大学9号館に設け、学生の自習スペースである「ラーニング・スタジオ」等での学習サポートの円滑化を図る。</li> <li>・学内外のサポーターが一堂に会して、相互理解と団体間の連携を図ることを目的とした「サポーターズフォーラム」の参加校の増加を目指す。</li> </ul> | <p>&lt;教育イノベーションセンター&gt;</p> <p>各サポーターは、新型コロナウイルスへの対応として対面式での活動が制限される中、オンラインツールなどを活用しながら、交流会（オンライン国際交流等）や様々なイベント（時間割相談、レポートの書き方講座、キャリアサポートプログラム等）を企画し、各種のサポーター活動を展開した。</p> <p>大学9号館の「ラーニング・スタジオ」では、12月の土曜日にピアサポーター主催による「3大学合同 レポート作成スキルアップ研修」（成城大学・帝京大学・法政大学、オンライン開催）の配信を行った。</p> <p>コロナ禍の下でのサポーターの活動は、「新型コロナウイルス感染症への対応による先進的な学生支援の取組」の事例として、日本学生支援機構の実地調査を受けて、コロナ禍においても取り組みが途絶えることなく継続されていること、分かりやすいトレーニングマニュアルなども整備されていることなどについて、高い評価を得た（日本学生支援機構のホームページにて他大学への参考として、実地調査報告書とともに公表されている）。</p> <p>「サポーターズフォーラム」は、今年度で5周年となる記念すべき回を11月20日（土）に開催し、23大学及び高校4校、総勢約150名の学生・生徒が参加した。各サポーター団体においては、サポーター紹介冊子「つづり」の作成（3月発行）などを通じて、今年度の活動を総括し、来年度は対面とオンラインをどのように組み合わせて実施するかや、各大学及び高校にどのように参加の声掛けをするかについて検討を行った。</p> <p>&lt;図書館&gt;</p> <p>6月から7月にかけて、店舗とオンラインのハイブリッド形式で選書ツアーを実施し、延べ8名が参加、51冊の資料選定を行った。また、選定した資料告知のため館内とWebサイト上において10月20日から11月20日まで展示を行った。</p> <p>さらに、11月2日には本学卒業生で作家の柴田勝家氏を招いての講演会をオンラインで開催し、約40名の参加者があった。また、年度当初よりライブラリーサポーターの新規募集を行ってきた結果、12月31日までに15名が新規加入した。</p> |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

②共通教育研究センターの教養科目群の再編を含め充実を図ることにより、成城大学の学生として身につけるべき教養を提供する。

| 事業計画                    | 事業報告                                       |
|-------------------------|--------------------------------------------|
| 教養科目群の課題と改編に向けた検討を開始する。 | 「地域空間論Vab」「数理の世界」のシラバスが事業計画に合致していることを確認した。 |

#### 中期計画取り組み

③就業力育成・認定プログラムの充実。

| 事業計画                                                                               | 事業報告                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在の就業力育成・認定プログラムについて、正課科目・正課外プログラムとも、より教育効果の高いプログラムへと更新すべく、新たに着任する特別任用教員とともに検証を行う。 | センター長、特別任用教員及び専任職員全員で、「slack」、「miro」といったオンラインツールの活用や定期的なミーティングの実施により、カリキュラム改革案の立案を行った。<br>また、各学部長をはじめとした学内教職員に加えて、新たに導入した外部アドバイザー・評価委員の意見も参考に検討を行った結果、よりブラッシュアップしたカリキュラム改革案へと内容を向上させることができた。 |

#### (C) 情操・教養教育 中期計画以外の事業計画

##### 文芸学部

| 事業計画                                                                                                                                                                                                         | 事業報告                                                                                                                                                                                 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①2015年度に開始して6年目を迎える「文芸講座」と、これと連動する「WRD科目」のうちの文芸学部学生のみを履修対象者としている授業科目について、これまでの成果を確認し、必要な修正を行うことにより、両授業科目の充実を図る。<br>②副専攻制度の見直しと充実を検討する。<br>③学科横断的なカリキュラムの工夫、卒業論文の発表会、ワークショップ、卒業論文の冊子化等による学生への卒業論文の公開について検討する。 | ①の「文芸講座」については、2021年度の成果を確認し、来年度授業の実施方法等を検討した。「WRD科目」については、共通教育研究センター、共通教育専任教員の協力の下、テキストを作成した。<br>②の副専攻制度については、デジタル証明書（オープンバッジ）の導入を検討した。<br>③の卒業論文については、学科別に優秀論文の表彰、共用研究室内での公開を行っている。 |

法学部：令和元（2019）年度に開講した「世界の言語と文化」の授業実施について

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                  | 事業報告                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本授業は、異文化コミュニケーション能力の習得への動機付けを与えるべく、教員の実体験に基づいて、主要国家の言語事情と文化をオムニバス形式で紹介する内容を持つ。<br>令和3（2021）年度も、授業の実施状況、とりわけオンラインを利用した授業の実施状況を検証し、クラス規模、学生の学習状況・学習効果等の点で改善すべき問題点の把握を行うとともに、学生により充実した授業内容を提供するための具体的な取り組みについて引き続き検討を行う。 | 学部教務委員会において、授業の実施状況、とりわけコロナ禍におけるオンラインを利用した授業の実施状況を検証し、改善すべき問題点の把握、及びそれを踏まえた授業内容の改善に向けた今後の具体的な取り組みについて検討を行い、授業担当者を中心に遠隔授業における資料の提示方法等について情報共有を行った。 |

## 社会イノベーション学部：演習や社会人との連携の充実

| 事業計画                                                                                                                                                                 | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①本学部における学びの特長を集約した授業科目である「社会イノベーション特殊演習」（2～4年次配当選択科目）について、さらにインタラクティブな演習の実現に向けた工夫を行う。</p> <p>②学部での学修の理解が一段と深まるよう、幅広い国際協力活動を行っている組織、ベンチャー企業経営者など社会人との連携を広げていく。</p> | <p>今年度の「社会イノベーション特殊演習」は、グループワークを数多く実施し、Zoomのオンライン・チャットやWebClassの諸機能、Google Formsなどを積極的に利用して議論の質を高めるとともに、学生間のコミュニケーションの質向上も図るなど、インタラクティブな演習の実現に向けた工夫を行った。</p> <p>また、これまで外部の特別講師を1名としていたベンチャー企業のセッションにおいて外部講師を3名に増員し、富士通株式会社のセッションでは幹部社員の参加を実現させるなど、外部人材との連携を充実させ、例年に勝るとも劣らない内容を提供できた。</p> <p>さらに、来年度の初年次ガイダンスにアクセンチュア株式会社勤務の卒業生を招聘し、社会人の立場から充実した学生生活を送るためのメッセージをいただくことが決まった。</p> |

## (D) 学校独自の分野

## 中期計画目標

- 1) 大学、各学部の人材育成の目標を達成するための教学改革を企画・実行する。

## 中期計画取り組み

- ①学習者本位の教育の実施。課題解決型授業の推進、ピアラーニングの推進、FD・SD活動の強化を企画・実施する。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>課題解決型授業の推進、ピアラーニングの推進、FD・SD活動の強化を企画する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>優れた授業の取り組みを紹介する冊子である「授業カタログ」等を通じて、課題解決型授業の成果を共有し、その推進を図る。【課題解決型授業の推進】</li> <li>ピアチューターによる授業時のサポート（グループワークにおけるファシリテーター、プレゼンテーションの例示等）の実施により、学生が共に学び合うピアラーニングを推進する。【ピアラーニングの推進】</li> <li>大学としてのFDやSDの実施計画を立て実行するとともに、FD・SD講演会・ワークショップ等への学内教職員の参加者の増加を目指す。【FD・SD活動の強化】</li> </ul> | <p>今年度の「授業カタログ」については、対象となる授業科目を選定し、取材を進め、冊子を発行した。</p> <p>ピアチューターによる授業サポートは、前期には7科目、後期には13科目の授業で配置を行った。授業サポートの様子は、所管の委員会で報告するとともに、大学ウェブサイトでも公開している。</p> <p>FD・SD活動については、世田谷プラットフォームの主催により、10月25日に「コロナ禍における大学院教育での教育・研究活動の質の保証について～研究指導上の課題に対する取り組みを中心に」というテーマでシンポジウムを開催した（オンライン開催）。本学からは、文学研究科の喜多崎親教授が発表を行った。その他、大学ウェブサイトの教育イノベーションセンター「FD・SD活動」のページにおいては、オンライン授業等に参考となる他大学の事例などを紹介するなど、学内教職員に有益な情報提供を行った。</p> |



ピアチューターによる授業サポート

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

##### ②教学マネジメント及び教学IRの推進。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生に自身の学びを認識させるフィードバックの仕組みや学びへの動機付けとして、学習ポートフォリオの導入を検討する。</li> <li>・ 全学部1・3年次を対象とした「汎用的能力測定テスト (GPS (Global Proficiency Skills program) -Academic)」、また、学部生・大学院生を対象とした「卒業生（修了生）アンケート」の実施等により、学習成果の把握を促進する。</li> <li>・ 本学における教育活動の実施状況及び教育の成果に関する定量的・定性的な分析により得られた結果をウェブサイト等で公表する。</li> </ul> | <p>学習ポートフォリオについては、来年度にリプレイスが予定されている新教学システムにパッケージとして装備されている機能があるため、その機能が効果的に利用できるものであるか等、確認作業を開始した。</p> <p>「汎用的能力測定テスト (GP-Academic)」は、1年次生向けには4月に、3年次生については後期に実施した。テスト結果からは、学習成果として、本学学生は批判的思考力や協働的思考力が上昇しており、中でも創造的思考力が伸びていることが分かった。分析結果については、教職員向けの報告会や各種委員会を通じて学内で共有し、今後の教育改善に向けた参考資料として活用している。</p> <p>なお、本学における教育活動の実施状況及び教育の成果に関する定量的・定性的な分析により得られた結果は、大学ウェブサイト等で公表すべく、引き続き、検討を行うこととしている。</p> |

#### 中期計画目標

2) ウィズコロナの状況下での遠隔授業の経験を通じ、オンライン教育の有効性と可能性を検証しながら、その恒常化を図る。

#### 中期計画取り組み

##### ①オンライン教育、遠隔授業の有効性を検証する。

| 事業計画                                                                        | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>各種アンケート（授業改善アンケート、大学IR学生アンケート調査等）の実施を通じてオンライン教育、遠隔授業の現状把握と有効性の検証を行う。</p> | <p>2021年8月に、学生向けに「遠隔授業受講に関するアンケート調査」を実施し、その結果の分析を行った。また、同時期に、教員向けに「授業運営に係る実態調査（アンケート）」を行い、オンライン授業において教員が抱えている学生とのコミュニケーションや学修支援上の課題等について把握し、大学としてどのようなサポートが必要かを検討し、教員向けの「オンライン総合案内」の設置やオンライン授業に関する各種の情報提供を行った。</p> <p>このほか、学生向けに、前期及び後期に「授業改善アンケート」を、11月には「大学IR学生アンケート」を実施し、各種分析を継続して行っている。</p> |

#### 中期計画取り組み

##### ②オンラインを利用した国際共同研究の推進、リカレント教育、国内の地方大学との連携プログラムの構築を目指す。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                             | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンラインによる国際共同研究の活性化を検討する。</li> <li>・ 対面授業とオンライン授業を同時に行うハイフレックス型授業のための施設整備（2020年度より整備を一部開始）。</li> <li>・ リカレント教育として、オンデマンド教材の制作を検討、開始する。</li> <li>・ 地方大学との包括協定締結及び具体的連携内容を検討する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リカレント教育として①「成城 学びの森 コミュニティー・カレッジ」及び「オープン・カレッジ」についてオンデマンド配信を実現した。来年度以降にもそのノウハウを継承する。②世田谷プラットフォーム事業の一つとして新たに「ビジネスキャリアデザイン講座」を開講し、2022年3月末日時点で延べ1,000名を超える受講者があった。2022年度も引き続き実施を予定している。</li> <li>・ 公立はこだて未来大学との連携により、①本学データサイエンス授業科目へのTA派遣、②アントレプレナーシップ醸成プログラム（合同ゼミナール）を実施した（9月）。</li> </ul> |



## 中期計画目標

## 3) 高大連携の強化を図る。

## 中期計画取り組み

①学園高校との連携強化及び連携・協定校の拡充を目的とした教育交流、出張講義、探究型授業の成果発表会の実施等の推進。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                          | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>進学予定者を対象に、高校から大学への円滑な移行を目的とした「入学準備プログラム」を実施する。【教育交流の実施】</li> <li>高校生と大学生の交流を通じて探究活動への興味・関心や水準を高め、高校と大学双方の探究活動の向上を目的とした探究型授業の成果発表会の実施に向けて、高校へヒアリングを行い、検討を行う。【探究型授業の成果発表会の実施】</li> </ul> | <p>&lt;社会イノベーション学部&gt;<br/>今年度は、学園高校推薦入学を含む特別入試による進学予定者を対象とした「入学準備プログラム」を、第1回は2月12日、第2回は3月5日に実施した。<br/>学部に関する紹介、参加者によるワーク（在学生在がファシリテーターを務めた）、ミニ講義と課題レポートの提出、受講者の質問に在学生在が答えるコーナーを設けるなど、内容を工夫した結果、振り返りアンケートでも好評であった。</p> <p>&lt;教育イノベーションセンター&gt;<br/>総合型選抜、学校推薦型選抜による入学予定者及び学園高校からの進学予定者向けに入学準備プログラム「大学生活スタートアップセミナー」を2022年2月にオンラインにて開催し、約150名の参加があった。セミナーは在学生在が運営し、学部も学年も様々な18名の在学生在が事前研修を積み、当日は、司会進行、各種ワークのファシリテーションなどを務めた。参加した入学予定者からは、「最初は緊張したが、先輩が明るく進めてくれて大学へ行くことが楽しみになった」「高校と大学の勉強の違いを知ることができた」「新しい友達ができた」などの感想が聞かれ、4月から始まる新生活へ、前向きな一歩を踏み出す機会となった。<br/>探究型授業の成果発表会については、11月20日（土）開催のサポーターズフォーラムにて、今回初めて「高大連携分科会」を設け、高校生には探究学習の成果発表や活動報告、大学生にはゼミナールでの研究発表を行ってもらった（成城学園高校・横浜女学院高校の生徒、本学学生が参加）。これを踏まえ、来年度の成果発表会の実施に向けて検討を行い、早期に実施スケジュール（案）を策定し、包括協定校を中心に参加の意向調査等を行うこととした。</p> <p>&lt;入学センター&gt; 【未達：進捗率50%】<br/>学園高校の学年ごとに、進路先としての成城大学を生徒に認識してもらうことを目的に、各学部によるガイダンスやミニ講義を実施しているが、より効果的な取組となるよう学園高校から聞き取りを行い、1年生がガイダンスで学部の説明を受ける段階で成城大学自体に対する知識がないことや生徒が大学施設に入った経験が少ないことなど、課題を明確化した。改善案について、各学部と調整中である。</p> |

## 中期計画目標

## 4) 2015年度大学評価（認証評価）において指摘を受けたように、大学院各研究科の収容定員に対する在籍学生比率は依然として低い状況にある。大学院改革の一つとして定員充足率の改善を目指す。

## 中期計画取り組み

①大学院と学部教育との連携強化。

科目等履修生制度を利用して、学部生に大学院の授業科目履修の便宜を図り、大学院への理解を深めることによって、進学意欲を喚起する。

| 事業計画                                               | 事業報告      |
|----------------------------------------------------|-----------|
| 文学研究科コミュニケーション学専攻への進学を希望する文芸学部在学生ののための科目等履修生制度の開始。 | 計画通り実施した。 |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

##### ②大学院入試改革。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                  | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・成城大学大学院澤柳奨学金の拡充。</li> <li>・「成城 学びの森」コミュニティー・カレッジを通して、大学院への社会人学生受け入れを推進する。</li> </ul> <p>＜経済学研究科＞ ＜文学研究科＞<br/>内部推薦制度の拡充<br/>＜法学研究科＞<br/>試験科目の再編等の継続検討及び実施<br/>＜社会イノベーション研究科＞<br/>学部生向けの大学院進学ガイダンスの継続実施及び拡充</p> | <p>＜経済学研究科＞、＜文学研究科＞、＜法学研究科＞<br/>試験科目に関しては、すでに科目数としては、限界まで減らしていると思料されるところ、次の展開をどうするべきかについて、種々検討を行ってきた。来年度以降、この検討を踏まえ、改善策を検討する。</p> <p>＜社会イノベーション研究科＞【未達】<br/>年度当初（開講前）のガイダンス（1年次及び3年次）におけるキャリア・ガイダンスの中で、キャリア開発の一つとして紹介することを予定していたが、COVID-19対応のため、予定してガイダンスを実施することが叶わなかった。ただし、通常、実施している入試説明会には学部学生からの参加もあり、学部学生にも進学に向けた情報提供の機会を提供した。</p> |

#### (D) 学校独自の分野 中期計画以外の事業計画

##### 法学部：新カリキュラムの授業実施について

| 事業計画                                                                                                                      | 事業報告                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>令和元（2019）年度より導入した新カリキュラムの授業実施状況、とりわけオンラインを利用・併用した授業の実施状況を検証し、改善すべき問題点の把握を行うとともに、個々の授業内容の改善に向けた具体的な内容について引き続き検討を行う。</p> | <p>学部教務委員会において、授業の実施状況、とりわけコロナ禍におけるオンラインを利用・併用した授業の実施状況を検証し、改善すべき問題点の把握、及びそれを踏まえた個々の授業内容の改善に向けた今後の具体的な取り組みについて検討を行い、授業担当者を中心に情報共有を行った。</p> |

##### 社会イノベーション学部

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                       | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①オンライン教育、遠隔授業の有効性を検証する。<br/>学部内に、2020年度のオンライン教育の経験を踏まえて、意見交換の機会を設ける。</p> <p>②地方大学との包括協定締結。<br/>学部内に、地方大学との連携授業・イベント等のあり方を検討する機会を設ける。</p> <p>③予備校との新しい連携プロジェクト。<br/>「社会イノベーション特殊演習」を応用した高校生向けの新しい課題解決型の授業の構築に向け、予備校と連携して授業を企画し、実施する。</p> | <p>①これまでのオンライン教育の経験を踏まえた意見交換の機会を設けることは叶わなかったが、来年度の授業において、どのようにオンライン教育を採り入れるかを学部内で検討し、来年度も一部の科目でオンデマンド方式の授業を実施することになった。</p> <p>②公立はこだて未来大学との合同ゼミ（アントレプレナーシップ醸成プログラム）を9月1日・2日に実施した。連携授業のあり方については、引き続き検討を進めている。</p> <p>③城南進学研究社と連携し、「2021年度 クリエイティブラーニング講座：SDGs &amp; 2030年の日本/世界」と題する講座を、城南予備校DUO在籍の高1生～高3生・高卒生を対象として、5月29日、6月26日、7月22日の3回にわたって実施した。来年度も同様の内容、規模で実施する予定で準備を進めている。</p> |

##### 学長室事務室

| 事業計画                                             | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>成城大学におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）のあり方を調査・検討する。</p> | <p>コミュニケーションツール「slack」を大学事務業務に導入して運用開始したことでコミュニケーション促進の効果が見られた。今後、さらに利用を拡大して、さらなる業務改善、効率化につなげていくことを予定している。</p> <p>また、Zoomのプロアカウント導入により、オンライン会議の実施が増えたことで、場所を問わずに会議を実施することにつながっている。今後も、本学の業務改善・効率化につながるDXのあり方を引き続き調査・検討していくことを予定している。</p> |



## 教育イノベーションセンター

| 事業計画                                                                                                                        | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学長のリーダーシップの下に教育改革を推進するため、学内において、特に優れた教育改革や教育改善するための取り組みに対して所要経費を措置し、教育の質の一層の向上を図ることを目的に、成城大学学長裁量経費「教育改革推進特別事業」を実施する。</p> | <p>2021年度の成城大学学長裁量経費「教育改革推進特別事業」は、9月～10月及び11月～12月にかけて募集を行い、審査委員会での審議のうえ、以下の通り、採択事業が決定された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成城大学の学生のIELTSスコアを向上させるため、毎日の英語読書を行う」</li> <li>・「長期留学を目指すSIEP登録生のためのIELTSライティング個別指導（副題）Zoomによる個別指導の効果の検証」</li> <li>・「WRD用問題集・教授資料編集執筆」</li> <li>・「キャリアセンター 正課外プログラム『デザイン思考ワークショップ』の実施と就業力育成・認定プログラムへの導入に向けた検討」</li> <li>・「Emerging Innovations in Learning and Research Processes through Interactions (社会イノベーション研究科における相互作用を通じた学習過程・研究過程の最新化とイノベーションに向けた萌芽の実現)」</li> </ul> |

### 3. 事業の概要

#### ■ 中学校高等学校

##### (A) 国際教育 (a) 語学教育

###### 中期計画目標

- 1) 4技能をバランス良く伸ばすことを目的に、中2修了時に英検3級、中3修了時に英検準2級の取得を目指す。  
また、高2修了時にCEFR-J B1.2の英語力を身につけ、英検2級全員取得を目指す。

###### 中期計画取り組み

- ①授業や補習授業での単語テスト、ライティング、スピーキング等の活動を通して、英検取得のサポートを強化する。

| 事業計画                                                                                      | 事業報告                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業や補習授業において、これまで行われてきた、単語テスト、ライティング、スピーキング等の活動の、内容(教材)、時期(回数)についての分析を行い、英検取得のサポート体制を強化する。 | <b>【未達：進捗率80%】</b><br>英検取得に関するサポート体制については、他の英語カリキュラムの内容との関係を考慮しつつ、強化することができた。<br>一方で、GTEC導入については様々な角度から検討を重ねたが、機材等、いくつかの問題があることがわかり、2022年度の本格実施は見送りとなった。この点が未達成となった。 |

###### 中期計画取り組み

- ②英語4技能をバランス良く身につける教材やICTを活用する。  
③会話の鍵となる英語表現を学び、身近なテーマについて英語で話し合う活動を積極的に行う。  
④英文法や語彙を習得させ、英検をはじめとする外部試験を積極的に活用する。  
⑤海外の学校で使われている教材を使用し、ペアワークやグループワーク等のインタラクティブな学びを積極的に取り入れ、思考力とコミュニケーション力の向上を図る。

| 事業計画                                                                                                                                                                                 | 事業報告                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現在導入されている教材及びアプリケーションソフトの利用状況と、これを授業展開・評価に効果的に結びつける方法に関する分析を継続的に行う。加えて、中学2・3年生で新しく導入する教科書を用いた学びの定着を図る。<br>同時に、生徒主体となる授業展開を発展させていくための教員研修を重ね、上記③⑤を個々の授業の中で充実させられるような授業展開について実践を重ねていく。 | e-learning用アプリの利用については、生徒が日常的に利用するようになり、一定の成果をあげている。<br>また、今年度から導入された新しい教科書を用いた授業についても、授業展開、教材作成、評価方法を含めて複数の課題解決を図ることができた。<br>インタラクティブな授業展開についても成果を上げつつあるが、来年度以降、さらに充実したものにできると考えられる。 |

##### (A) 国際教育 (b) 国際交流

###### 中期計画目標

- 本校独自の留学プログラムを充実させ、帰国後もオンライン等を活用し、外国語の授業に限定せず、総合的な学習の時間や行事等を通じて、交流を主体的な学びにつなげる。

###### 中期計画取り組み

- ①オンラインツールを活用し、姉妹校との留学プログラム以外の交流(課題を設定してのディスカッション 例：環境問題に関するオンライン会議)を企画する。

| 事業計画                                                                                                                                           | 事業報告                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| これまでに実施した海外(米国)とのオンライン交流授業の実践を発展させると同時に、オンラインツールを利用した海外交流の他校における実践例等の情報収集を積極的に重ね、応用していく。また、コロナ禍における国際交流プログラムについて、終息後も見据えて、可能なものに関する検討及び実施を試みる。 | 実験的なものも含めてオンラインツールを利用した複数の海外との交流授業を行うことができた。こういった試みは、コロナ禍終息後の国際交流プログラムに厚みを持たせることにつながるような有意義なものであった。<br>こうした貴重な情報収集を行うことができた今年度の実践から、個々の内容について、現時点よりも充実したものを作ることが課題として残った。 |

## 中期計画取り組み

②新たな留学プログラムの拡充を検討する(英国イートン校サマースクール等)。

| 事業計画                                                                                                | 事業報告                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新規中3研修旅行を中心に新たな留学プログラムに関する現地調査等、(コロナ禍においても)可能な準備を進める。さらに、同時にこうした準備が、新たな留学プログラムの開拓につながるものになるようにしていく。 | まず、今年度の活動を通して、コロナ禍により中止となっている留学プログラムの再構築のための足がかりを確保することはできた。<br>さらに、結果的に、現地調査(下見)を行うことはできなかったが、オンライン会議を利用するなどの方法で、より多くの生徒が参加できる新規プログラムを開拓するための有意義な情報収集を行うこともできた。<br>これに加えて、年度末(春休み)には、英語に積極的に親しむことを目的とした英語プログラム「セカクル」を実施することもできた。 |



「セカクル」による英語プログラム

## (B)理数系教育 (a)論理的思考力

## 中期計画目標

課題を発見し解決する能力を育成するために、日常的な授業に加え、次の施策を展開する。

[中学]宿泊行事(中学3年)等でのPBLを主体とした取り組み

[高校]自由研究での「SDGs講座」開設

これらの中で、事前学習、企画力の育成、Zoom等での交流、現地調査と触れ合い、事後発表、継続的な交流を行う。

## 中期計画取り組み

①中学校段階からPBLを可能な限り採用した授業を展開する。

| 事業計画                                                                                      | 事業報告                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中学3年生を中心とした総合的な学習の時間や道徳の授業にPBLを主体としたプログラムが導入できるように準備を進める。<br><br>これに関連する教員研修を行い、内容の充実を図る。 | グローバルコンピテン্সプログラムに関する研修等を重ね、来年度から実施するための様々な条件整備をすることができた。これにより、来年度より中学1～3年生がPBLを強く意識した授業を受けることが可能となる。<br>同時に、複数の探究的な学習に関する授業実践(自由研究講座など)を行うことができた。一部(道徳)については、引き続き検討が必要となった。 |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

②SDGsに関する自由研究講座(発信力・プレゼンテーション能力を鍛えることも含め)を開設する。

| 事業計画                                                                              | 事業報告                                                                                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 高校自由研究における「SDGs講座」を開設し、広く情報をつかみ、これを基に探究していく態度を養い、さらに、他の生徒へ発信していくことを軸においた授業展開を目指す。 | 自由研究「SDGs講座」では、生徒たちがSDGsを自分の問題として深く捉え、探究的に取り組むことができた。同時に、この授業の中で培われた表現力を発揮できる場を、複数設定することができた(成城大学との連携も行うことができた)。こうした取り組みは、この授業の枠に限定されない、来年度へつなげるものとなった。 |

#### 中期計画取り組み

③様々な地域や学校との連携の機会を拡大する。

| 事業計画                                                               | 事業報告                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| これまで実施されてきた課外教室・宿泊行事等で培ってきた様々な地域とのつながり・連携を生かして、生徒の視点を広げられる機会を拡充する。 | 【未達：進捗率50%】<br>課外教室のうち多くの企画が、コロナ禍により、本来の形で実施できなかった。しかし、その中でも、それぞれが工夫し代替措置を行った。遠隔地のコースなどは直接の交流はできなかったが、訪問予定だった地域に関する生徒の理解を深めることができた。<br>こうした経験を生かした形で、来年度(2022年度)の企画を立案できたので、あらためて、生徒が様々な地域とのつながりを持てるようにしていく。 |

#### (B)理数系教育 (b)デジタルスキル

##### 中期計画目標

- 1) 協働学習の場を拡張することを目的として、教科、特別活動で生徒にデジタル機器を活用させる。その際、個々の生徒の活動の成果を蓄積すること(ポートフォリオの作成)や広く発信できるようなデジタルスキルの定着にも重点を置く。
- 2) 学校行事等、機会あるごとに生徒を主体としたGoogle Formsでのアンケート調査を行い、それらを分析しつつ、改善につなげる。
- 3) 情報モラル教育を拡充する。

#### 中期計画取り組み

- ①教科ごとに行ってきた調べ学習について、年度末等にデジタルツールを使い、発表する機会を設ける。
- ②生徒が参加する学校行事についてはGoogle Formsによるアンケートを毎回実施する。
- ③情報リテラシーについて、定期的に学ぶ機会を強化する(道徳、情報の時間等の利用)。

| 事業計画                                                                                                                             | 事業報告                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| これまで行われてきた、主としてiPadを利用した生徒によるプレゼンテーションについて、教科の枠を超えた取り組みを実施していく。<br><br>情報リテラシー教育に関しては、各学年における取り組みやそのつながりが分かりやすく示されるものになるようにしていく。 | iPadの利用については、この1年間で幅広い利用が全学年で定着し、その内容にも深まりが見られた。特に、オンライン授業については、よりきめ細かな対応が可能となり、即応性などの点でも極めて向上した。<br>情報リテラシー教育については今後、生徒の日常生活に密接に関わるものとして、各学年の成長過程を踏まえた指導ができるように、今年度実施されたデジタル・シティズンシップ教育に関する研修会(合研)を生かしていく方向性を確認できた。 |

## (B)理数系教育 (c)科学教育・環境教育

## 中期計画目標

- 1) 理系の専門の研究者を講師に招いての「サイエンス教室」の継続実施・企画内容の充実、さらに新設された「恐竜・化石ギャラリー」の活用等を通して、生徒の科学に対する興味関心を高める。
- 2) ICTを利用した数学教育の充実、理科実験教室を活用したカリキュラムの構築、理数コース(高2・3)向けカリキュラムの充実と、新しい課外教室を企画・設置する。

## 中期計画取り組み

- ①新学習指導要領の趣旨に沿って、科学的なものの見方・考え方を構築できるような教材の開発。同時に、中高の接続をしつかりと考え、文系に進学する生徒に対してもサイエンスリテラシーが身につけられるようなカリキュラムを構築する。

| 事業計画                                                                                                                               | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中学校新学習指導要領への移行を踏まえた、理科の見方・考え方を養うための新カリキュラム内容の構築ならびに授業展開に関する実践を重ねる。</p> <p>文系生徒対象の理科に関する科目内容に、サイエンスリテラシーを身につけるための教材を取り入れていく。</p> | <p>【未達：進捗率80%】</p> <p>中学校新学習指導要領に関連した実験実習教材については、この1年間を通して深まりを持たせることができた。また、高等学校の授業内容についても、2022年度から実施される内容に向けての準備を行うことができた。さらに、文系コースを対象とした授業についても、教材等の工夫を重ねることができた。</p> <p>一方で、高等学校新学習指導要領の完全実施が2023年以降である高2、さらに高3の科目内容の検討については、詳細の決定には至らなかった。</p> |

## 中期計画取り組み

- ②企業・研究施設を訪れて最先端の科学技術に触れることができる課外教室を実施する。

| 事業計画                                                                | 事業報告                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>主として理系進学希望者を対象とした、課外教室のコース設定を行い、この実施を通して、個々の興味を深められるようにしていく。</p> | <p>【未達：進捗率50%】</p> <p>今年度の理系進学希望者対象のコースについては、コロナ禍により宿泊を伴う企画は実施できず、宿泊を伴わないプログラミング研修やプラネタリウムの利用などに限定されてしまった。</p> <p>来年度については、新たに宿泊型の実施を目指してコース設定を再検討し、企業訪問などの企画についても本来の形での実施を目指していけるよう準備した。</p> |

## 中期計画取り組み

- ③数式や図形に関する様々なアプリケーションを授業に取り入れる。

| 事業計画                                                                                                                       | 事業報告                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教科書等と有機的に結びついたアプリケーションソフトの利用を中心に、生徒が主体的に学習に取り組みやすい教材づくりを行う。また、グラフ作成に関するアプリケーションソフトについても、効果的な利用を、特にデータの活用等の場面で試みていく。</p> | <p>【未達：進捗率50%】</p> <p>年間を通して、図形、グラフなど、問題作成等の場面では、アプリケーションソフトの利用を行うことができた。</p> <p>ただし、アプリケーションソフトを活用していく上で、その利用範囲については課題が残った形になった。</p> <p>同時に、理科でのより広い活用などについても、引き続き検討していくことが今後の課題として残った。</p> |



### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

- ④中学・高校の授業で「恐竜・化石ギャラリー」を活用する。  
中高生が専門的な研究者とのつながりを持つきっかけを作る。

| 事業計画                                                                          | 事業報告                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 中高生を対象とした恐竜・化石ギャラリーを利用した授業用プログラム・教材を作り、授業で活用していく。さらに、専門的な研究者と生徒のつながりの場を設けていく。 | 【未達：進捗率80%】<br>恐竜・化石ギャラリーに関する、中学生、高校生、それぞれを対象とした授業用プログラム(教材)を作成することができた。<br>その一方で、コロナ禍によりこの施設を利用した他校の教員も含めた研修会の実施など、より深まりを持たせるための実践はできなかった。 |

#### 中期計画取り組み

- ⑤「サイエンス教室」を年3回実施し、多くの生徒が参加できるようにしていく。

| 事業計画                                                                                                     | 事業報告                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オンラインの活動も含めた、大学等の研究者と触れ合うことができる「サイエンス教室」を開き、可能な限り多くの生徒が参加できるようにしていく。<br>こうした活動の中で、授業の枠を超えた実験実習に取り組みせていく。 | 【未達：進捗率40%】<br>複数回サイエンス教室の企画を準備したが、いずれもコロナ禍の状況により実現することができなかった(特に、生徒の下校時間等の制約を受けた)。来年度については、今年度実施できなかったが、準備を進めていた企画を中心に内容を検討し、実施していく。 |

### (C) 情操・教養教育

#### 中期計画目標

- 1) 生徒の学びの集大成となる発表や演奏会等、各教科における表現活動の場の充実。
- 2) デジタルスキルを活用した文化部活動における発表や発信の機会を設ける。
- 3) 生徒が主体的に関わり、各々の心身の成長に結びつくように、行事や部活動の運営方法を見直す。

#### 中期計画取り組み

- ①授業で学んだデジタルスキルを活用してSEIJO Web Gallery を開設し、生徒の作品や発表を広く発信する。

| 事業計画                                                                                     | 事業報告                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 音楽、美術、書道といった授業・部活動の成果を発表する場として、これまで行われてきた文化祭・文連週間等の作品展を発展させていくために、デジタル活用による表現活動の場を広げていく。 | いずれも開催自体が危ぶまれたものの、適宜、感染拡大防止策を取りながら、文連週間、文化祭、四教科選択授業発表会など、生徒の活動の成果を発表する場をつくることができた。<br>こうした発表の場では、ICT機器が活用された。成果物の多くがウェブサイト等で広く紹介されたり、様々な刊行物がデジタル化されるようになり、SEIJO Web Gallery 開設の下地を作ることができた。 |

#### 中期計画取り組み

- ②諸行事の運営方法を、生徒のリーダーシップ育成の観点から、再構築する。

| 事業計画                                                                                              | 事業報告                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 飛翔祭(体育祭)・文化祭の場等に限らず、日常の生徒会活動においても、学年を問わず、生徒のリーダーシップの下での議論・意見収集といった活動の場を広げ、その成果を生徒自身が実感できるようにしていく。 | コロナ禍での行事運営については、常任委員会が、率先して感染防止策について考え、消毒作業、ポスター作製を行うなど、主体的に関わる場面が多く見られた。また、各行事の場で、高校3年生がリーダーシップを発揮するための手段として、Google Classroomを活用するなど、新たな工夫が見られた。<br>コロナ禍での制限により、活動の機会が、従来と比べて減少してしまったことが残念な状況となった。 |

#### 中期計画取り組み

③中学における合唱コンクールや作文発表会を継続・発展させる。

| 事業計画                                                                    | 事業報告                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コロナ禍での障害を乗り越えていけるような、合唱コンクール、作文発表会といった、伝統的に行われてきた行事のあり方を見直し、その維持、発展を図る。 | コロナ禍における実施という点から、学年を越えた交流ができなかったが、それぞれについては満足度の高い充実したものとなった。コロナ禍における経験は、あらためて、これまでの練習、準備のあり方について捉えなおすきっかけとなった。 |



飛翔祭に代わり実施した体育授業発表会



文化祭

### 3. 事業の概要

#### ■ 初等学校

##### (A) 国際教育 (a) 語学教育

##### 中期計画目標

英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる。

6年生で英検4級取得相当の英語力を身につける。

##### 中期計画取り組み

①外部試験を用いて、英語学習の成果を測る。

| 事業計画                                                                     | 事業報告                                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4、5、6年生で実用英語技能検定(英検)4級未取得者に4級または5級を受検させる。<br><br>6年生での英検4級取得率65%以上を達成する。 | 【未達：進捗率70%】<br>1月21日の延期先2月8日がコロナ休校期間と重なり、英検実施に至らなかった。6年生で英検4級既取得者が50%(12月31日時点)であったので、進捗率70%とした。 |

##### 中期計画取り組み

②語彙力、リスニング力、スピーキング力強化。  
ICT(iPad、アプリ)を活用した英語授業、家庭学習の提供。

| 事業計画                                                                                                                       | 事業報告                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3年生以上児童1人1台iPadの導入1年目に当たり、普通の授業と家庭学習で英語力強化に効果的な学習アプリを研究・活用する。<br>普通の授業で1人1台iPad環境の整備が進んでいる低学年児童についても、学習アプリを効果的に活用する機会を設ける。 | 3年生以上1人1台iPad計画実行により、英検準備学習Monoxerアプリで普通の授業と家庭学習で児童の英語力強化に効果を上げることができた。低学年児童についてもICT機器の活用により、楽しく英語を学ぶことが毎回の授業で実践された。 |

##### 中期計画取り組み

③英語教育の質の向上。  
英語の授業時間数増加(高学年)による学習の広がりや深まりの実現。

| 事業計画                                                                                            | 事業報告                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 1、2年生：1h/週<br>3、4年生：2h/週<br>5、6年生：2h/週<br>昨年度失われた教科時間数検討機会を挽回し、来年度の試験的实施に向け、高学年3h/週をシミュレーションする。 | 5、6年生：3h/週の時間割編成が年度末に完成し、来年度から高学年は週1時間増の当初の計画が実施されることになった。 |

##### 中期計画取り組み

④授業の質の向上(英語4技能5領域及び語彙力の強化)。

| 事業計画                                                                                                                                                       | 事業報告                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 日本人英語担当教員と外国人講師のチームティーチングによるオールイングリッシュ授業(全クラス・全授業)。<br>英国オックスフォード大学出版のテキストブックの使用。<br>単元小テスト・パフォーマンステストの実施。<br>サイドリーダー等、副教材の活用。<br>ワードリストの活用。<br>フォニックスの活用。 | 全クラスの全授業にわたり、日本人英語担当教員と外国人講師のチームティーチングによるオールイングリッシュ授業をはじめ、事業計画通り実施した。 |

## 中期計画取り組み

## ⑤アクティブラーニング・深い学び。

| 事業計画                                                                                                                                                                                            | 事業報告                                                                                                                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学習計画の提示、児童の振り返りの実施。</p> <p>思考力・判断力・表現力の向上を目指し、生きた言語使用場面を作り出す。</p> <p>ペアワーク、グループワーク、ボランティア支援によるLet's have a chat!の実施。</p> <p>教科横断型授業の実施（社会・美術・保健等のトピックについて、児童が既に持っている知識や技能を活用して英語学習を深める）。</p> | <p>学習計画を提示し、児童の振り返りを実施した。また、全学年で教科横断型の授業を実施し、英語学習を深めることができた。その他、コロナの影響で今年度もLet's have a chat！は実施できなかったものの、台湾ヴィクトリア小学校児童との交流を図る機会を持つことができた。</p> |

## (A) 国際教育 (b) 国際交流

## 中期計画目標

学習した英語を用いてコミュニケーションを図る機会を提供し、世界の多様な価値観に触れ、自主性とともに相手を思いやる心情を育てる。

## 中期計画取り組み

## ①成城大学への留学生との国際交流。

| 事業計画                                                                    | 事業報告                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>互いに語学力を伸ばす機会とし、多文化理解及び国際交流の場の提供を図る。</p> <p>年1回の実施を検討中。年度内実施を目指す。</p> | <p>コロナ禍で成城大学の留学生との交流はできなかったが、英語を母国語としない台湾のヴィクトリア小学校と交流し、同年代の児童同士で質疑応答するなど、英語を通じてのコミュニケーションができた。</p> |

## 中期計画取り組み

## ②オーストラリア・ホームステイの旅の継続。

| 事業計画                                                                                                          | 事業報告                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>昨年度はコロナ禍で中止を余儀なくされたが、今年度は3月実施の可能性を探る。過去20回実施の歴史を絶やさない。</p> <p>コアラチームとセント・トーマスモアスクールバディとのオンライン交流等を企画する。</p> | <p>【未達：進捗率20%】</p> <p>外部の事業者の仲介でオーストラリア現地校との交流機会を探ったものの、コロナ禍により3月末までに実現には至らなかった。準備中の4・5年生向け説明会も開催に至らなかった。</p> |

## (A) 国際教育 中期計画以外の事業計画

| 事業計画                                                            | 事業報告                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>国際交流委員会の活動として、Zoomを利用して、英語圏に限らず海外の子どもたちとのオンライン交流の機会を増やす。</p> | <p>国際交流委員がコーディネイトし、台湾のヴィクトリア小学校の児童との交流を含め、1年間を通じ社会科、英語、オリパラ教育等の授業時間中に全学年で国際理解教育を実践した。</p> |

### 3. 事業の概要

#### (B)理数系教育 (a)論理的思考力

##### 中期計画目標

あらゆる教科において、筋道立てて、考察・説明しようとする経験を積むことで、論理的に考える資質・能力を育成する。

##### 中期計画取り組み

- ①カリキュラムの見直し及び改訂カリキュラムの実施。  
(理科・数学・国語・社会・映像)

| 事業計画                                        | 事業報告                                                                         |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 全面改訂したカリキュラムの試行と時数、系統、教材の適時性の検証1年度目(検証の開始)。 | 理数系教科部では、論理的思考力の向上の観点から全面改訂したカリキュラムでの授業実践から、時数、系統、教材適時性について検証2年度目に向けて進捗中である。 |

#### (B)理数系教育 (b)デジタルスキル

##### 中期計画目標

- 1) 様々な電子機器、ICT機器を利用し、表現する技術を習得する。
- 2) 電子機器、ICT機器を利用して、効果的な情報収集をし、情報の取捨選択をするとともに、正しく情報活用ができるようになる。
- 3) 電子機器、ICT機器を利用した表現活動や映像作品の鑑賞を通して、創造性を養う。

##### 中期計画取り組み

- ①子どもの学びに向けた教員のICTスキル向上。

| 事業計画                                                                          | 事業報告                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 日々進歩していく技術に対応するため、教員が<br>(i) 研修会参加・講師を招いて研究会<br>(ii) 撮影スキルを学ぶための研修等に積極的に参加する。 | 教員の多くが各種研修会に参加、講師を招いての研究会を開くことはもちろん、本校教員が講師となって他校の各種研修会や研究会で本校での実践報告をすることが多かった。 |

##### 中期計画取り組み

- ②ICT機器を活用した授業実践。

| 事業計画                       | 事業報告                                                   |
|----------------------------|--------------------------------------------------------|
| デジタル教科書・学習支援アプリの段階的導入を進める。 | 学習支援アプリMonoxer、学びポケット、スクールタクト等の活用により、学校と家庭での学習効果が高まった。 |

#### (B)理数系教育 (c)科学教育・環境教育

##### 中期計画目標

- 1) 自然や日常事象との関わりを通して、そこから見出される様々な問題を、「生きてはたらく知識・技能」を用いて、探究していく姿勢を育成し、人間を含めた自然を愛する心情を養う。
- 2) 本物に触れ合うことで、地質学への興味関心を持たせるために「恐竜・化石ギャラリー」を活用する。

##### 中期計画取り組み

- (再掲)  
①カリキュラムの見直し及び改訂カリキュラムの実施。(理科・数学・国語・社会・映像)



| 事業計画                                        | 事業報告                                                                         |
|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 全面改訂したカリキュラムの試行と時数、系統、教材の適時性の検証1年度目(検証の開始)。 | 理科部では、生きてはたらく知識・技能の観点から全面改訂したカリキュラムでの授業実践から、時数、系統、教材適時性について検証2年度目に向けて進捗中である。 |

## 中期計画取り組み

②教科間連携を生かした、教科横断的な適時性を鑑みた科学教育の充実。

| 事業計画                        | 事業報告                                                   |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------|
| 理科のカリキュラム改訂に合わせた他教科の適時性の検討。 | 理科のカリキュラム改訂を受けて、国語、数学、社会、英語、読書、劇、映像などの教科横断的授業研究に取り組んだ。 |

## 中期計画取り組み

③本物に触れ、人間を含めた自然を愛する心情を養う場の継続・充実。

| 事業計画                                  | 事業報告                                                                         |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 校外学習等の充実<br>(夏の学校、スキー学校、クラスデー、海岸学習等)。 | 【未達：進捗率30%】<br>コロナ禍によりスキー学校が中止になり、校外学習はグループハイキングと低学年の散歩の授業、数クラスのクラスデーにとどまった。 |

## (B) 理数系教育 中期計画以外の事業計画

| 事業計画                                                                                                                              | 事業報告                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 恐竜・化石ギャラリーの有効活用により児童の中から「恐竜博士」の育成を図る。<br><br>ソニー教育財団より2020年度「科学の好きな子どもを育てるソニー子ども科学教育プログラム」において本校が「奨励校」に選定されたことから、ますます理数系教育の充実を図る。 | 多くのクラスで恐竜・化石ギャラリーの活用ができた。ソニー財団からは「子ども科学賞」の受賞、日産財団からは研究助成を受けて、子どもたちの理科の学びの充実に還元された。理科好きの子どもが増えている。 |

## (C) 情操・教養教育

## 中期計画目標

出会いや関わりを大切にし、言葉や文字、歌や身体等、様々な表現方法で思いを伝える経験をすることで、心を解放し、互いに感性を磨き、豊かな表現力を育む。

## 中期計画取り組み

①カリキュラムの見直し及び改訂カリキュラムの実施。(美術・音楽・体育・舞踊・劇・文学)

| 事業計画                                                                                   | 事業報告                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| iPadを使用してポートフォリオを作成し、個人内評価へつなげる(美術科ほか)。<br>ICT機器を活用したカリキュラムの実施。<br>他教科と横断的・総合的学習活動の実験。 | 美術科でのiPadを使用してポートフォリオ作成のみならず、情操・教養教育でもICT機器の活用が進んだ。音楽、劇、舞踊をはじめ、カリキュラム研究が教科横断的に進められた。 |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

- ②授業での成果発表の場としての「学校行事における学びの質の充実」。  
(劇の会、音楽の会、運動会、文化祭、その他授業発表の場)
- ③豊かな感性、人間力を高めることを目的として、本物を鑑賞する機会を拡大。  
(音楽鑑賞会、劇鑑賞会等)
- ④人間を含めた自然を愛する心情を養う活動における学びの質の向上。  
(異年齢活動や、校外教育)

| 事業計画                                                                                             | 事業報告                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>感染防止対策を講じつつ、音楽の会、劇の会を継続実施する。</p> <p>行事終了後、児童の「振り返り」等から内容を検証する。<br/>行事終了後、教員の反省等から内容を検証する。</p> | <p><b>【未達：進捗率85%】</b><br/>コロナの影響で3学期の劇の会は卒業を控えた6年松組の上演にとどまった。音楽鑑賞会はコロナ休校中であつたので、公演の模様を録画し、休校明けの授業中に講堂で鑑賞した。</p> |

#### (C) 情操・教養教育 中期計画以外の事業計画

| 事業計画                               | 事業報告                                                                                 |
|------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>コロナ禍における児童の創作・表現活動について研究する。</p> | <p><b>【未達：進捗率90%】</b><br/>研究は進んだものの、コロナの影響を受けて、劇の会の3年、4年、5年の上演は2022年4月29日に延期された。</p> |

#### (D) 学校独自の分野

##### 中期計画目標

出会いや関わりを通して見出される様々な課題に対して、自ら考え行動し、高め合い学んだことを、よりよい未来に生かす力を育む。

#### 中期計画取り組み

- ①カリキュラムの見直し及び改訂カリキュラムの実施。(遊び・散歩・読書・つながり・特別研究)

| 事業計画                                                      | 事業報告                                                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>コロナ禍における「つながり」のあり方を研究する。</p> <p>「図書のへや」の有効活用を研究する。</p> | <p>コロナ禍にあつたからこそその「つながり」の研究が進んだ。図書委員が読書のすすめを積極的に取り組み、図書のへやの有効活用を推進した。<br/>11月27日第38回教育改造研究会を実施し、全教科が様々な形でカリキュラム見直しに取り組んだ。</p> |

#### 中期計画取り組み

- ②課外クラブの継続。(ライフセービング、合唱部、ブラスバンド部)
- ③教科横断した取り組みの継続。(クラスデー)

| 事業計画                                                                                                                                | 事業報告                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>命を守る生命教育の一環としてのライフセービング部の活動継続。<br/>コロナ禍での音楽系課外クラブの活動充実に向け取り組む。</p> <p>教室内外、学校・学園内外での様々な体験からの「学び」と創造力を育むクラスデーの取り組みをカリキュラム化する。</p> | <p>コロナ禍にあつた生命教育をテーマにライフセービングの活動は継続した。感染拡大防止策を講じつつ、歌唱の制限のあった合唱部、打楽器等を生かしたブラスバンド部の活動をできる範囲で行った。また、創造力を育むクラスデーを実施した。</p> |



3学期劇の会



音楽鑑賞会

## ■ 幼稚園

## (A) 国際教育 (a) 語学教育

## 中期計画目標

- 1) 外国人に対し物怖じせず、コミュニケーションを図りたいという意欲を育てる。
- 2) 英語の音、響き等に対する感覚を身につけ、実践しようとする。
- 3) 学園英語一貫教育の入口として、初等学校以降へのスムーズな接続を図る。

## 中期計画取り組み

- ① 中高のネイティブ講師たちとの交流の機会を年2回以上設ける。

| 事業計画                                                                                                                              | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中高のネイティブ講師に幼稚園の活動に参加してもらう(年2回以上)。</li> <li>・ その実施に向けたスケジュール調整を図る(主に中高の定期試験中)。</li> </ul> | <p>【未達：進捗率75%】</p> <p>12月に中高のネイティブ講師が来園して活動に参加した。</p> <p>3学期中にもう1回、来園してもらうことを計画していたが、コロナ感染者数の急増により約3週間リモート保育となり、調整がつかなかった。年2回以上という計画からすると年間で1回しか実現しなかったため、進捗率は75%としたが、中期計画目標に向けての成果ということでは、外国人とコミュニケーションを図りたいという意欲や英語の音、響き等に対する感覚は身につけてきており、実現しているといえる。</p> |

## 中期計画取り組み

- ② ネイティブ講師も日本人教師と一緒に日々の保育に関わり、子どもたちに生活の中での英語を体験させる。
- ③ 年長・年中は、週2回、年少は週1回、ネイティブ講師を中心に、基礎的な英単語やフレーズを身につける英語活動の時間を持つ。
- ④ 幼児期の聴覚発達を踏まえ、英語の歌や絵本から文脈(シーン)の中で、英語のリズムやイントネーション、ライム(韻)等を含めた、英語の音の全体像に触れる機会を持たせる。

| 事業計画                                                                                                                                                                          | 事業報告                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>② 引き続き、ネイティブ講師も日々の保育に関わる。</li> <li>③ ネイティブ講師を中心とした英語活動の時間を設定する。年長・年中＝週2回、年少＝週1回。</li> <li>④ 現在も実施している英語の歌や英語の絵本に触れる機会を継続する。</li> </ul> | <p>英語の歌唱も含め予定していた活動全てが実践できた。保護者から「自宅でも英語の歌を歌っている」との報告もあり、子どもたちの生活の一部になっている。</p> |

## (A) 国際教育 (b) 国際交流

## 中期計画目標

- 1) 世界を知る第一歩として、まず日本の文化を体験し、理解させる。
- 2) 英語を通して他国の存在を知るとともに、その文化への興味・関心を持ち、理解を深める。
- 3) 英語以外にも多くの言語が世界に存在することを知るとともに、英語圏以外の文化への興味・関心を持ち、理解を深める。

## 中期計画取り組み

- ① 母国語が異なる学園中高ネイティブ講師との交流機会を設ける。

| 事業計画                                                | 事業報告                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中高ネイティブ講師との交流(前述)の中で、子どもたちが世界を知る体験ができるようにする。</p> | <p>他校のネイティブ講師と触れ合う機会は、リモート保育期間が長くなってしまったため、3学期には持てなかったが、2学期には実現でき、「子どもたちが世界を知る」直接の機会となった。その後、他国に関することに触れる機会を引き続き提供し、子どもたちはその知識を積極的に吸収している。</p> |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

- ②節句、七夕、ひな祭り、節分等、日本の伝統行事を体験させる。
- ③世界地図を見て、いろいろな国やその文化を考えさせる機会を設ける。
- ④大学・高校への各国からの留学生との交流を通し、他国言語・文化を感じる機会を設ける。

| 事業計画                                                                                                 | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ②子どもたちに日本の伝統行事を体験させる機会を継続実施する。<br>③日々の活動の中で、世界に触れる機会を設ける。<br>④コロナ禍の収束状況を見ながら、各校との相談のうえ、留学生との交流機会を図る。 | <b>【未達：進捗率80%】</b><br>②について、餅つきなど飲食に関わる一部の行事は実施できなかったが概ね継続実施できた。<br>③は年間で7か国について扱った。子どもたちと一緒に世界地図を見て場所を確認し、国旗、食文化、観光地、言語などに触れながら、内容についてクイズを出し合うなど子どもたちが楽しみながら関心が持てるように展開した。また、活動中に使用した各国に関するポスターは、その後廊下に掲示した。ポスターを見ながら子どもたち同士で、それらの国に関し話し合う姿も見られるようになり、成果は上がっている。<br>④コロナ禍で留学生が来校せず実現できなかった。進捗率を80%としたのは、この④が実現できていないため。 |

#### (B)理数系教育 (a)論理的思考力

##### 中期計画目標

- 1) 自分の主張を伝える力をつける。
- 2) 相手の考えを聴く力を養う。
- 3) 解決策を考える力を育てる。
- 4) 計画的に物事に取り組む力を育てる。

#### 中期計画取り組み

- ①自分の意見や考えを友達の前で話す機会を作る。
- ②友達の考えや話を聞いて、自分の考えと異なる友達の考えに気付く体験をさせる。
- ③教員は子どもたちと一緒に、問題を子ども同士で解決する機会を作る。
- ④積み木や折り紙等、完成形をイメージして、工夫しながら様々なものを創り上げる。
- ⑤友達と協力しながら、工夫して大きな製作物を創り上げる。

| 事業計画                                                               | 事業報告                         |
|--------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| ①～③の取り組みについては、具体的な機会や体験の場を用意する。<br>④⑤の取り組みは、従来の創作活動をさらに深めることで実践する。 | 年間を通じて、予定の内容を十分に実施できたと考えている。 |



Pepperとの触れ合い体験

※Pepperはソフトバンクロボティクスの商標です。  
 ※Pepper社会貢献プログラムを活用し独自に実施しています。

## (B)理数系教育 (b)デジタルスキル

## 中期計画目標

- 1) ICTの楽しさを体感させる。
- 2) 子どもたちの興味関心、理解促進のために、日々の活動にデジタル技術を取り入れる。
- 3) 情報を整理、分析したり、判断する力を育てる。
- 4) ICT機器を扱う際の適切な使い方(態度やマナー、モラル)を身につけさせる。

## 中期計画取り組み

- ①子どもたちがICT機器の扱い方に関するマナーや約束を守る必要を知る機会を作る。

| 事業計画                                                    | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ICT機器の扱い方について、子どもたちに必要なマナーや約束事を教員間で吟味し、その伝え方等についても検討する。 | コロナ禍のリモート保育期間を利用して「デジタル・シティズンシップ」について検討。子どもたちに伝える実践もし、その様子について情報共有しながら理解を深めた。子どもたちに見せた動画は「オンラインの約束」だが、教員は、国際大学の豊福先生チームが作成した指導案や動画など、園児に適したものだけでなく、発達年齢別に作成された一連の指導案や動画を学び、理解を深めた。<br>実際に子どもたちが体験できる場面・機会を利用して、特に効果が期待できる時に実践し、検討していこうと考えていたので、リモート保育となった3週間は、とても有効的な期間となった。 |

## 中期計画取り組み

- ②子どもたちにICT機器を安全に使わせるための保護者教育の機会を作る。

| 事業計画                                          | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 子どもたちにICT機器を安全に使わせるための保護者教育について、その方法や内容を検討する。 | 以下の2点について検討し、リモート保育期間中に実施した。<br>①2学期から引き続き「子どもの目の健康」について、2学期は「子どもたちがICT機器を使うことから生じる目の健康へのマイナスの影響について」保護者の理解を深めていただくための動画を保護者に視聴してもらい、3学期は「学童期の近視進行抑制の現状」や「その対応策」などに関し、保護者の理解を深めた。具体的には「太陽光に含まれる『バイオレットライト』が近視の進行を抑制する可能性がある」という研究があること、「上手にバランス良くICT機器と付き合う必要があること」の情報提供を行った。これには、学園長補佐の森先生作成のPDF等を活用させていただいた。<br>②子どものタブレット利用時の注意については、今度先生の講演資料から「時間の約束ではなく行動と結びつける工夫」「守りにくい約束で子どもに負担をかけることをしない」「約束が守れなくても子どものせいにしていない(守れない理由を確認し、守れたら褒める)」等、保護者が陥りがちな誤った関わり方にならないよう、教員間で検討し、この期間に保護者教育を実施。 |

## 中期計画取り組み

- ③ロボットと触れ合う体験をさせる。
- ④カメラやタブレット等のICT機器を利用して、植物や昆虫の成長等を継続的に観察する活動を行う。
- ⑤映像メディアを利用し、交通安全や防犯についての知識を得て話し合いにより理解を深める活動を行う。
- ⑥製作で使用する素材や教材を、形や色、数で比較したり分類したりする。



### 3. 事業の概要

| 事業計画                                                                                                                                          | 事業報告                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| ③ロボットと触れ合う機会を設ける。<br>④自然の観察活動で、子どもたちにカメラやタブレット等のICT機器を利用させる。<br>⑤交通安全や防犯についての知識を得る機会に映像メディアを活用する。<br>⑥製作で使用する素材や教材を、形や色、数による比較や分類を子どもたちに行わせる。 | ロボット体験は、2学期に実施。その他、子どもたちは年間を通じて、タブレット等で検索し映像を確認する等、ICT機器を自然と活用していた。 |

#### (B)理数系教育 (c)科学教育・環境教育

##### 中期計画目標

- 1) 自然への関心を育てる。
- 2) 植物の生長への興味・関心を育てる。
- 3) 自然科学への興味・関心を育てる。

##### 中期計画取り組み

- ①自然観察の中で発見した生き物や草花について、図鑑やICT機器を活用し、教員と一緒に調べる機会を設ける。
- ②野菜の栽培を行い、食べる楽しみを養うために、収穫を体験させる。
- ③植物の生長を知るために、花の種子や球根を植えること等を体験させる。
- ④理科の実験授業を体験し、不思議だな、面白いなという原体験をさせる。

| 事業計画                                                                                                         | 事業報告                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①子どもたちが、図鑑やICT機器を活用しながら、教員と一緒に生き物や草花を調べる機会を設ける。<br>②収穫体験の機会を設ける。<br>③花の種子や球根を植える等の体験をさせる。<br>④理科の実験授業を体験させる。 | <b>【未達：進捗率75%】</b><br>コロナ感染者増のため、中高理科教員の来園が実現できず、④の実験授業を体験させることができなかったが、①は、日々の活動において実施。②③に関しては、トマトを苗から育て収穫を体験させたり、枝豆の豆を植え発芽させ、収穫まで体験させた。 |

#### (C)情操・教養教育

##### 中期計画目標

- 1) 子どもたちの想像力を育て、人の気持ちへの理解を深める。
- 2) 友達と一緒に協力して行うことの楽しさを知り、その感覚を養う。
- 3) 芸術に対する感受性を育て、さらにその能力を伸ばし、創造力や表現力等の感性を磨く。

##### 中期計画取り組み

- ①絵本の読み聞かせ活動や製作活動等により、子どもたちが自分でイメージを膨らませたり、教員や友達とイメージを共有し想像力を育てる機会を作る。

| 事業計画                  | 事業報告                         |
|-----------------------|------------------------------|
| 絵本の読み聞かせ活動や製作活動を実施する。 | 年間を通じて、予定の内容を十分に実施できたと考えている。 |

##### 中期計画取り組み

- ②子ども自身が自分の思いと相手の思いと折り合いをつけていく力を育てるために、保護者と教員が一体となり、子どもの様子をよく見る機会を作る。
- ③音楽や美術を中心に“本物に触れる機会”を多く与える。
- ④想像力・表現力・創造力等の感性を磨くために、ごっこ遊びや劇遊びの表現活動の機会を設ける。

| 事業計画                                                                            | 事業報告                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| ②保護者と教員が一体となり、子どもの様子をよく見る機会を作る。<br>③音楽や美術の鑑賞会を多く設ける。<br>④ごっこ遊びや劇遊びの表現活動の機会を設ける。 | コロナ禍で例年とは異なる実施形態だったりするが、この様な状況下でも目的は達成できた。 |

## (D) 学校独自の分野

## 中期計画目標

- 1) 恵まれた自然環境の中で、自然に触れ、五感を使って感性を磨き、実体験を増やす。
- 2) クラス学年を超えた集団生活を通して人とのつながり、共に生活することの意味を学ぶ。
- 3) 英語、美術、体操の三分野の能力のさらなる向上を図る。

## 中期計画取り組み

- ①学園単位で他学年交流の機会を作る。

| 事業計画                                                                                  | 事業報告                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 過去に単発的に行われていた交流経験を参考にしながら、ワンキャンパスの利点を生かし、園児の成長のプラスとなるような小学生・中高生との交流の場を検討し、その実施計画を考える。 | <b>【未達：進捗率 50%】</b><br>3学期に期待していた年長の初等学校見学は、コロナ禍が収束しなかったため、実現できなかった。<br>コロナ対応で学園内ハイキングに切り替えたが、初等学校の「地獄谷」や「かんざつの森」で遠足気分を味わうだけでなく、初等学校の校庭で遊ぶ時間を作れたことで、小学校生活への憧れを味わうことが少しできた。コロナ禍で園児にとって、例年の体験が難しいなか貴重な体験となった。 |

## 中期計画取り組み

- ②園庭での自由遊びや学園内散歩を行う。
- ③日々の活動における異学年交流の場を提供する。

| 事業計画                                           | 事業報告                         |
|------------------------------------------------|------------------------------|
| ②園庭での自由遊びや学園内散歩を行う。<br>③日々の活動における異学年交流の場を提供する。 | 年間を通じて、予定の内容を十分に実施できたと考えている。 |

## 中期計画取り組み

- ④アフタースクールを実施する。

| 事業計画                                                                                   | 事業報告                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・年長には、英語、美術、(体操)のアフタースクールを実施する。<br>・年中には、英語のアフタースクールを実施する。<br>※体操は、コロナの影響で実施できない場合もある。 | コロナ禍で、体操が実施できなかったこと、3学期のリモート保育期間ならびに感染対策として午前保育とした期間は、実施できなかったが、年間を通して考えると、コロナ禍でも可能な範囲で実施できたと考えている。 |

## II. 研究活動

### ■ 大 学

#### 中期計画目標

民俗学研究所・経済研究所・グローバル研究センターによる研究の深化と、特に外部資金の獲得も視野に入れた研究活動の推進、及び海外の研究機関との学術交流の推進を目指す。

#### 中期計画取り組み

①民俗学研究所・経済研究所・グローバル研究センターの研究プロジェクトの活性化を図る。

| 事業計画                   | 事業報告                                                                                 |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| MOU締結先の拡充（国際共同研究の活性化）。 | <b>【未着手】</b><br>グローバル研究センターにおいて、当初ロンドン大学との協定締結を検討していたが、センター内で検討した結果、新規締結は断念することとなった。 |

#### 中期計画取り組み

②科学研究費助成事業等の採択に向けた取り組みの支援を充実させる。

| 事業計画                                         | 事業報告                                                                           |
|----------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 2019年度及び2020年度に引き続き、外部資金獲得のためのセミナーを継続して実施する。 | 以下の通り実施した。<br>7月9日：科研費概要説明（日本学術振興会）<br>7月28日：科研費申請にあたっての取り組み方の事例紹介（本学名誉教授及び教授） |

#### 中期計画取り組み

③研究機構・研究センターの利用を活性化する。

| 事業計画                 | 事業報告                                                                       |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 2021年度より供用開始（大学9号館）。 | 治療的司法研究センターが入居した。当該センターにおいては、さらなる外部資金の獲得や研究者コミュニティからの支援を目指し、今後の一層の活性化を目指す。 |

#### 研究活動 中期計画以外の事業計画

##### 法学部

| 事業計画                                                    | 事業報告                                                          |
|---------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 令和3（2021）年度も、成城法学を順次公刊し、その内容をウェブサイトにおいてPDFにより公開する予定である。 | 「成城法学」89号（新山一雄先生古稀祝賀記念号）を公刊した。その内容を学部ウェブサイトにてPDFにより公開する予定である。 |

## 民俗学研究所

| 事業計画                                                                                                                                                                                 | 事業報告                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研究所創設50周年記念事業 デジタルアーカイブの作成・公開。</p> <p>民俗学研究所創設50周年記念事業として、3年計画で貴重資料のデジタルアーカイブを作成・公開し、国内外研究者の民俗学・柳田國男研究の活性化と推進を図る。</p> <p>2021年度は、デジタルアーカイブの作成とともに原資料の展示公開、研究成果の刊行を行い、研究者へ資する。</p> | <p>令和3年度分デジタルアーカイブデータを作成し、ADEACシステムに搭載した(検証環境のため内部公開のみ)。</p> <p>特別展「柳田國男からの絵はがき」を11月4日～12月22日の期間実施した。</p> <p>民俗学研究所紀要別冊「柳田國男 旅先からの絵はがき 明治三十九～四十二」を刊行した。</p> |

## ■ 中学校高等学校

## 中期計画目標

- 1) 自立的な学習者を育成するための教員の授業力・指導力の向上を目指す。
- 2) 社会の変化を見据えた教育のあり方を常に模索し形にできるよう、研究会・研修会の充実を図る。

## 中期計画取り組み

- ①各教員に年に1度は外部の研修会等への参加を促し、報告書の提出を求める。
- ②研究部を中心に多角的なテーマを設定し、校内での研究会・研修会を年に2回以上実施する。

| 事業計画                                                                                                                           | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>各教員が、積極的に問題意識を持ち、それを共有できるような、学内「勉強会」を定期的に行うことを土台として、これらを基に外部の研修会等への参加を促していく。さらに、学内研修会を通して、新教育課程、評価等を中心に各教科の授業内容等の充実を図る。</p> | <p>評価方法(ルーブリック評価)に関する中高研修会の実施などを通して、あらためて学習活動の根幹に関わる部分について問題意識を持つことができた。さらに、デジタル・シティズンシップ教育への取り組みなど、今後につながる内容についても、研修会を通して教員の知見を深めることができた。</p> <p>今後、具体的な実践につなげていくための細かな検討を重ねることが課題として残った。</p> <p>また、外部の研修会については、コロナ禍により限定的なものとなったが、参加できたものについては、その後の学内研修につながるような情報収集活動等ができた。</p> |

## ■ 初等学校

## 中期計画目標

- 1) 児童の教育活動の充実を図るため、授業研究を通して、教員の授業力の向上を目指す。
  - ・外部発表の継続・充実
  - ・校内授業研究会の継続・充実
- 2) Zoom等を利用したリモート授業に関する研究。
- 3) 教育成果の発表を行う。

## 中期計画取り組み

- ①ICT機器やAI等の先進技術を活用した教育の研究。

| 事業計画                                                                                | 事業報告                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| <p>コロナ禍に後押しされた「オンライン学習」実践を恒常化させる。</p> <p>成城版「オンライン学級づくり」ノウハウの全国普及で、ICT教育先進校となる。</p> | <p>公立他校で講師を行ったり、書籍を発刊したりなど、ICT先進校になりつつある。オンライン授業の経常化を図る方向で研究を継続実施した。</p> |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

- ②年3回以上の研修会・公開授業研究会の実施。
- ③成城学園初等学校の伝統的な対外研究発表会である「教育改造研究会」の復活。

| 事業計画                                                                                                                                           | 事業報告                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| カウンセラー等、専門家を招いての児童心理の理解を目的とした校内研修の実施。<br>教科ごとの外部講師を招いた授業研究の実施。<br>全教員が年間1回以上の外部研究会への参加及び研究内容の報告。<br>外部講師を招いた授業力向上を目的とした新人研修の実施。<br>教育改造研究会の実施。 | 児童理解の研修会をスクールカウンセラー監修の下、計8回実施した。また、全教員が外部の授業研究会に参加したほか、教育改造研究会をはじめ校内授業研究会など外部から講師を招き公開の研究会を本校を会場に計5回実施し、教員の授業力向上に努めた。 |

#### 中期計画取り組み

- ④外部での研究発表(数学、美術)。

| 事業計画                                                               | 事業報告                                                                                                                                   |
|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本数学教育学会全国大会での発表(複数名)。<br><br>造形教育センター、児童造形教育研究会、美術科教育学会での発表(複数名)。 | 数学部の全国大会はオンラインでの開催になったため、今年度は発表を控えたが、他の研究会で数学部の教員が講師として招聘されたりした。年3回のオンラインでの数学研究授業・協議会を企画・実施した。<br>また、美術部はすでに研究発表を終え、来年度の発表に向け研究を進めている。 |

### 幼稚園

#### 中期計画目標

- 1) 幼児教育についての研究成果に基づいた保育の研究・実践を目指す。
- 2) 新教育要領に対応した成城カリキュラムの改善。
- 3) ポストコロナの新しい幼児教育のあり方を考える研究プロジェクトの立ち上げ。

#### 中期計画取り組み

- ①外部研究会への参加。
- ②園内での事例研究・読書会等の研究会の実施。

| 事業計画                                                                                                                    | 事業報告                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 東京都私立幼稚園連合会等が主催する外部研究会へ希望者が参加し(年に5回以上)、そこで得たことを全員で共有することで幼児教育への理解を深める。<br>園内で事例研究・読書会等を年に3回以上実施し、お互いの幼児教育の考え方を共有し向上させる。 | <b>【未達：進捗率80%】</b><br>個々の教員が今年度に参加した研究会の報告をし合い情報を共有し、幼児教育への理解を深め合うことは実現できた。<br>コロナ対応で仕事増となり時間が取れない中、事例研究や読書会等に変わるものとして、社会心理学等の概念をまとめた文書を提供することで勉強し合う形を工夫したことは実現できたが、3学期に、教員間で保育参観をし合う計画は、リモート保育期間が長くなってしまったため実現できなかった。 |

#### 中期計画取り組み

- ③学園カウンセラーと連携した幼児理解と保護者支援の研究。

| 事業計画                                                                  | 事業報告                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学園カウンセラーによる研究会等を実施し、幼児理解を深め、園児への教育に生かすだけでなく、保護者ともそれを共有することで保護者支援に努める。 | <b>【未達：進捗率80%】</b><br>全体的な研究会は実施できていないが、個別にカウンセラーに相談し、それを全員で共有すること、必要に応じて当該保護者とも共有することは年間を通じて実現できた。 |



## 中期計画取り組み

④現状カリキュラムと実践結果の比較検討。

| 事業計画                                  | 事業報告                                                                                               |
|---------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現状カリキュラムと実践結果との比較検討を行い、カリキュラムの改善に努める。 | 現状カリキュラムに則り、それぞれ実践してきたことについて、3学期に3回、全員で話し合う機会を設けた。実践内容と年間指導目標とに齟齬がなかったか等について確認しながら、現状カリキュラムの検討をした。 |

## ■ 中学校高等学校、初等学校、幼稚園共通

## 中期計画目標

「教育の質」向上を目的として、各校が課題を発見し、その解決に向けた改善活動を行う。

## 中期計画取り組み

①「学校評価」の実施。

| 事業計画                                                 | 事業報告                                                                              |
|------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 従来の評価方法（保護者アンケート、自己評価、評価委員による評価等）を見直し、来年度の実施に向け準備する。 | 来年度の学校評価実施に向け、「学校評価委員会規程」の見直し、改正案を作成した。加えて「学校評価のガイドライン」策定に向けた草案を作成、学園経営執行会議に提示した。 |

## Ⅲ. 社会連携活動

### ■ 大 学

#### 中期計画目標

世田谷区との連携強化と並行して地方との連携事業の開拓、及び成城大学(学園)卒業生、世田谷区民を対象としたリカレント教育の構築を目指す。

#### 中期計画取り組み

①社会に向けてのオンデマンド型授業を発信する。

| 事業計画                                                                                        | 事業報告                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2020年度「成城 学びの森」コミュニティ・カレッジ 秋冬講座で実験的に配信したオンデマンド講座の実績を検証しながら、コンテンツ制作を検討し、新たな講座体系についても検討・構築する。 | 2020年度実験的・試行的に実施したオンデマンド講座形式の「コミュニティ・カレッジ」について、2021年度は、春夏・秋冬それぞれの期にオンデマンド講座として開講し、受講者は延べ670名となった。 |

#### 中期計画取り組み

②地方大学の学生との交流を活性化する。

| 事業計画             | 事業報告                                                                                                                                                                                             |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| オンラインによる交流を検討する。 | <p>&lt;経済学部&gt;【未着手】<br/>大学が公立はこだて未来大学との包括協定を締結したことを契機に経済学部としても交流を開始したい。</p> <p>&lt;学長室事務室&gt;<br/>公立はこだて未来大学との連携により、①本学データサイエンス授業科目へのTA派遣、②夏期集中アントレプレナーシッププログラム、をそれぞれオンラインにて実施し、交流をスタートさせた。</p> |

#### 中期計画取り組み

③世田谷6大学コンソーシアム事業(「世田谷プラットフォーム」—2019年度より活動開始)の推進を図る。

| 事業計画                                                                   | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「世田谷プラットフォーム中長期計画」に掲げる目的・ビジョンの下、知財の提供、協働事業の実施等を通じ、プラットフォーム間のさらなる連携を図る。 | 世田谷プラットフォームが、文部科学省の補助事業「令和3年度 私立大学等改革総合支援事業」におけるタイプ3(プラットフォーム型)に選定された。本補助事業は、大学間、自治体、産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進を支援するもので、4年連続の選定となった。世田谷プラットフォーム事業の一つとして新たに「ビジネスキャリアデザイン講座」を開講し、2022年3月末日時点で延べ1,000名を超える受講者となった。2022年度も引き続き実施する。 |

#### 中期計画取り組み

④現役世代を対象とした講座の展開を検討する。

| 事業計画                                           | 事業報告                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「成城 学びの森 コミュニティ・カレッジ」及び「オープン・カレッジ」の講座内容の検討を行う。 | 「コミュニティ・カレッジ」及び「オープン・カレッジ」について、コロナ禍に伴い、年間を通じて全面的に「オンデマンド配信」の形態をとることとなった。これに伴い、これまでは時間等の制約で受講できなかった方々も受講することができるようになり、幅広い世代に受講いただけるようになった。 |

## 中期計画取り組み

⑤大学院への社会人学生受け入れを推進し、定員充足率の改善を図る。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>&lt;経済学研究科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成城 学びの森」の受講生に経済学研究科のパンフレットを配付する等、本研究科への関心を高める手立てを検討する。</li> </ul> <p>&lt;文学研究科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学試験において、社会人は一般語学の学力試験が免除されることを、大学ウェブサイト等を通じて、現行以上に周知する。</li> </ul> <p>&lt;法学研究科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人が参加しやすい進学説明会日程を設定する等、告知広報活動を強化する。</li> </ul> <p>&lt;社会イノベーション研究科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人入試及びシニア入試についての情報発信を継続していく。</li> </ul> <p>&lt;学長室事務室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成城 学びの森 コミュニティー・カレッジ」を通して、新たなリカレント教育を検討し、大学院への社会人学生受け入れを推進する。</li> </ul> | <p>&lt;経済学研究科&gt;</p> <p>本研究科への関心を高める手立ての検討は完了しているが、コロナ禍の中で「成城 学びの森」については講義自体が対面ではなくオンデマンドとなったため、部署間での連携依頼は継続しつつもパンフレット配付に関しては一時保留した。ただし、受験希望者の多い日本語学校に対しては、パンフレット送付を継続し、遠隔による入試説明会の開催の連絡など、可能な限りの手立てを講じ、応募者増につながる工夫を行ってきた。</p> <p>&lt;文学研究科&gt;【未達：進捗率50%】</p> <p>文学研究科ウェブサイトの充実について、専攻主任会議で検討した。</p> <p>&lt;法学研究科&gt;</p> <p>今年度にあっては、新型コロナウイルス感染症対策として、学外者の構内立ち入りが大きく制限されていた結果、対面での社会人向け進学説明会を設定することはできなかった。しかし、随時遠隔による説明ができる体制を構築することによって、十分な代替手段を提供することができた。</p> <p>&lt;社会イノベーション研究科&gt;</p> <p>入学説明会を開催しており、この開催について学外にも公表して案内し、その中で社会人等も受け入れていることを示している。なお、従前より、公表されている社会イノベーション研究科及び社会イノベーション専攻の入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）にも明記しているほか、公表されている学生募集要項にも記載されている。</p> <p>&lt;学長室事務室&gt;</p> <p>2021年度の新たな試みとして実施した世田谷プラットフォーム事業「ビジネスキャリアデザイン講座」は、ビジネスパーソンをターゲットとしたリカレント教育プログラムで、連携する世田谷区内の6つの大学が、それぞれの特徴を生かして講座を配信することで、延べ1,000名を超える受講者数になった。社会人の学びの可能性を上げた。</p> |

## ■ 中学校高等学校

## 中期計画目標

ボランティア活動等を通じた、地域や他校との連携の拡大。

## 中期計画取り組み

①様々な地域や学校との連携の拡大。

| 事業計画                                                                                                                   | 事業報告                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>5学園教育懇談会、東京都私学第8支部の活動を中心として他校との連携を図る。</p> <p>地域との連携を図る上での活動の一環として、例えば登下校指導といった活動を通してのつながりをきっかけとして、様々な声を聞く活動を行う。</p> | <p>5学園教育懇談会、私学第8支部会など、各校の状況を丁寧に聞き、コロナ禍での学校運営という点で連携することができた。また、成城自治会の方と交流させていただいたことから、今後、生徒が地域（社会）に目を向ける活動を考えるきっかけを得ることができた。</p> <p>今後、その内容や頻度について、より充実したものにしていくことが課題として残った。</p> |

### 3. 事業の概要

#### ■ 初等学校

##### 中期計画目標

奉仕活動・成城学園前駅付近商店との地域連携の強化を模索し、検討する。  
例) 朝の挨拶運動、清掃活動等

##### 中期計画取り組み

- ①朝の挨拶運動、清掃活動。
- ②成城学園前駅付近商店との地域連携。
- ③保護者による成城学園前駅商店街付近、南門、祖師谷門付近の交通安全指導。

| 事業計画                                                                                                       | 事業報告                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①朝の挨拶運動、清掃活動について、コロナ禍での実施可能な範囲での実施。<br>②成城学園前駅付近商店との地域連携については、社会科「地域の学習」と連動して実施。<br>③保護者と協力しての交通安全指導の継続実施。 | ①感染拡大防止対策を講じながら実施できたことは多くなかった。<br>②社会科や散歩の授業、クラスデーで事業者や店主から話をしてもらい、地域連携を強めることができた。<br>③交通安全指導は地域の協力を得たが、保護者の協力はコロナ禍で見送った。 |

##### 中期計画以外の事業計画

| 事業計画                                                                                                                               | 事業報告                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 敷地を接する世田谷区立祖師谷小学校との児童・保護者・教職員・校長各レベルでの学校間交流活動の継続・活性化。<br><br>学校協議会及び学校関係者評価委員会活動を通じての情報共有と学校連携の継続・活性化。<br><br>音楽でつながる成城・祖師谷地区との連携。 | 【未達：進捗率 70%】<br>祖師谷小学校関係者評価委員会の活動や、直接に校長、副校長との情報交換を通じて、コロナ対応、地域の実情、学園の現在等を互いに理解しえた。コロナ禍で児童や教員の実際の対面での交流は見送られた。音楽でつながる地域連携も構想止まりであった。 |

#### ■ 幼稚園

##### 中期計画目標

成城地域の人の協力を得ながら、地域社会が行っていることへの、子どもたちの理解を深める。

##### 中期計画取り組み

- ①成城の街での買い物体験。
- ②成城消防署・成城警察署による防災・防犯指導。

| 事業計画                                                                                    | 事業報告                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 商店街の協力を得て年1回以上、成城の街で子どもたちの買い物体験を継続実施する。<br>子どもたちに向けた成城消防署・成城警察署による防災・防犯指導を、それぞれ年1回実施する。 | 【未達：進捗率 50%】<br>コロナ禍で、商店街での買い物体験は実現できなかったが、それに準ずる体験として学園内「成城売店」での買い物体験（年長）を実施した。防災・防犯指導については、成城消防署・成城警察署が、この種の活動をコロナ禍で実施していないため行えていない。 |



学園内売店での買い物体験

## ■ 法人事務局

## 中期計画目標

- 1) 学園の安全・安心を強化するために、地元官公庁との関係を再確認し、再構築する。

## 中期計画取り組み

地域警察、消防、砦支所との取り組み等を洗い出し、「安全・安心の強化」に関わる地域連携施策の立案と実施。

| 事業計画                                     | 事業報告                                                                        |
|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 地元官公庁との協定、申し合わせ等の確認と、新たな連携施策を模索し方針を決定する。 | 学園祖師谷エリアの避難場所追加指定について、避難受け入れ後の原状復帰等を条件に受け入れる方針である旨を回答した。来年度は協定内容の精査を予定している。 |

## 中期計画目標

- 2) 地域に開かれた学園として、学園の有する人的資源・知的資産を地域に還元する。

## 中期計画取り組み

- ①近隣小学校を恐竜・化石ギャラリーへ招待。  
②スタインウェイピアノリサイタル公演会開催。

| 事業計画                                                                              | 事業報告                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ①恐竜・化石ギャラリー<br>コロナ禍の状況を見ながら、恐竜・化石ギャラリー開館計画を策定する。<br>近隣小学校他、学園と関係の深い教育機関の生徒等を招待する。 | 【未着手】<br>コロナ禍のため実施を見送った。 |
| ②ピアノリサイタル<br>コロナ禍の状況を踏まえ、11月下旬～12月初旬に実施する。                                        |                          |



## IV. 教育環境整備

### ■ 大 学

#### 中期計画目標

学生の自主的学びを活性化するために、大学1号館の改修及び2021年度から本格的に供用開始になる大学9号館の整備を目指すし、また教学支援システムの最適化と拡充を行う。さらに、オンライン教育のための教育環境整備を行う。

#### 中期計画取り組み

- ①ラーニングコモンスの拡充を図る。
- ②共通教育研究センター、国際センター、データサイエンス教育研究センターを移転し、学生のセンター利用を活性化する。

| 事業計画                                                                                         | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①成城版ラーニングスペースとして、新たに「ラーニング・スタジオ」を大学9号館に開設し、学生の自主的学びの場を提供。<br>②2021年1月に3センターは大学9号館の1、2、3階に移転。 | <b>&lt;データサイエンス教育研究センター&gt;【未達：進捗率50%】</b><br>データサイエンス教育研究センターは2021年1月に9号館に移転した。コロナ禍のため、学生のセンター利活用には至っていないが、2022年4月からの稼働を予定している。<br><br><b>&lt;教育イノベーションセンター&gt;</b><br>9号館の「ラーニング・スタジオ」は4月から供用を開始し、オンライン授業の受講や授業時間外での学習の場として多くの学生に活用されている。なお、新型コロナウイルスへの対応として、遮へい板を設置するなど、感染防止対策を徹底している。 |

#### 中期計画取り組み

- ③アフター／ウィズコロナの時代を視野に入れながら、オンライン教育のための教育環境整備を行う。
- ④教学事務システムのリブレースを行う。(2022年度計画)
- ⑤大学1号館のキャリアセンターの改修を行う。(2022年度計画)

| 事業計画                                         | 事業報告             |
|----------------------------------------------|------------------|
| ③2020年度に実施予定の大学7号館及び9号館の教室整備に加え、大学5号館の整備を行う。 | 予定した各号館の整備を実施した。 |

#### 中期計画取り組み

- ⑥バリアフリー化を推進する(各校舎・施設の入口等)。

| 事業計画                                                          | 事業報告                                                                            |
|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| ⑥学内各所において対象施設の検討を行い、順次実施する。<br>2号館1階の玄関ドア及び図書館正面入口を自動ドアに改修する。 | <b>【未達：進捗率50%】</b><br>2号館玄関ドアを自動ドアに改修し機能を向上した。図書館正面入口については、2023年度予算での改修を検討している。 |

#### 教育環境整備 中期計画以外の事業計画

文芸学部：共用研究室の環境整備

| 事業計画                           | 事業報告                               |
|--------------------------------|------------------------------------|
| 学生が過ごす空間としての共用研究室の使い方の工夫を検討する。 | COVID-19対策を行い、教員による学生指導の空間として整備した。 |

## 社会イノベーション学部：学生共同研究室の環境整備

| 事業計画                                                                      | 事業報告                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| コロナ禍により閉室を余儀なくされている学生共同研究室について、コロナ禍後の教育拠点として機能するように運用面、設備面での整備について検討を進める。 | 学生共同研究室をゼミでのグループ研究やゼミの枠を超えた共同研究の場とするというコンセプトに基づき、来年度のリニューアル・オープンに向けた設備面での更新を実施した。 |

## メディアネットワークセンター

| 事業計画                                                                                       | 事業報告                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①リース満了を迎える教育用 PC のリプレースを実施する。<br>② SINET6 移行準備のため、キャンパス内の光ファイバーを 10Gbps 以上の高速ネットワークに対応させる。 | 8号館教室用ネットワーク機器の更新完了し、コアスイッチまで10G～20Gでの広帯域にて通信が可能となった。<br>SINET6 接続用ネットワーク機器の予算も承認され、2022年4月から開始される SINET6 への移行準備も整った。 |

## 図書館

| 事業計画                                                     | 事業報告                                            |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| ラーニングcommonsやオンライン授業での利用にも資するべく、電子資料の購入比率を大幅に増加させる予定である。 | 2020年度に大幅に増加させていたうで、2021年度も前年比10%ほど増加させることができた。 |

## 管理課

| 事業計画                                                                                          | 事業報告                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・校舎の外装保全のため、2号館ベランダ手摺の塗り替え塗装及び5号館外壁補修工事を実施する。<br>・防災設備保全のため、法令の消防設備点検結果に基づく図書館火災感知器交換作業を実施する。 | 【未達：進捗率90%】<br>2号館ベランダ塗装工事、図書館火災感知器交換を2021年8月に完了した。5号館外壁補修においては、北側（1号館側）については完了したが、南側（小田急線側）はコロナ禍の影響による工事価格高騰のため、予算上の制約から実施できなかった。 |

## ■ 中学校高等学校

## 中期計画目標

- 1) PBL (課題解決学習) や Active Learning を積極的に取り入れるための特別教室の整備。(グループワークをかなえるための机、椅子等)
- 2) 教育ICTの導入における「SAMR」モデルの「Modification (変容)」「Redefinition (再定義)」のレベルを充実させるための、アプリケーション等周辺環境の整備。

## 中期計画取り組み

- ①コリドーの活用の再検討と試行。

| 事業計画                                                                              | 事業報告                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コリドー（ならびにカフェテリア、001教室）といった施設を生徒による情報発信や、生徒会活動の場として利用するための実験的利用と、その活動状況の記録等を行っていく。 | 【未達：進捗率60%】<br>文化祭、四教科選択授業発表会など、コロナ禍においても、地下1階スペースが生徒の情報発信、交流の場となるような工夫を重ねた。表現力を発揮する場として位置づけるだけでなく、あらためて交流の場としての位置づけについても確認した。<br>コロナ禍により、コリドー他を、本来の密な交流の場として使うことができなかった点では、その機能を十分に発揮することができなかった。 |

### 3. 事業の概要

#### 中期計画取り組み

②Active Learning Zoneの家具を協働学習用に段階的に整備する。

| 事業計画                                                                           | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Active Learning Zoneの利用状況(協働的な学習の実施状況)を、改めて把握していくための調査を行い、今後、必要な設備に関する状況把握を行う。 | <b>【未達：進捗率50%】</b><br>家具の整備状況などについては、従来のものを活用するにとどまった。その一方で今年度実施した企画から、協働的な学習活動の場として、広いスペースに、臨時的に複数の小型ホワイトボードを設置するなど、スペースのさらなる有効利用の方法には、工夫できる余地があることもわかってきた。ICT機器の利用の広がりに合わせて、協働的な学習を積極的に行う場として位置づけることができた。<br>ただし、予算面の制限から理想的な状況を作るには至らなかった。 |

#### ■ 初等学校

##### 中期計画目標

- 1) GIGAスクール構想に準拠した環境の整備。
  - ・児童1人1台端末の整備
  - ・管理ソフトの導入(1人1IDの用意)
  - ・児童1人1つGoogleアカウントの取得
  - ・オンライン授業環境の整備(Zoom・学びポケット)
  - ・デジタル教科書の導入
- 2) Zoom等を利用したリモート授業に関する研究に付随する環境整備。
- 3) 生涯体育に関する研究(体育館・小グラウンド等の環境整備)。
- 4) 図書室の環境整備とシステムの拡張。

#### 中期計画取り組み

①GIGAスクール構想に準拠した環境整備。

| 事業計画                                                                                                         | 事業報告                                                                                                                                                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 児童1人1台iPad計画実行の1年目に当たり、児童個人持ちiPadの導入(3～6年生)。<br><br>3、4年生は端末購入を基本に各家庭負担の理解・協力。<br>5、6年生は学園より貸与を基本に保守料を各家庭負担。 | 3年生以上1人1台iPad導入後、休校措置の際のオンライン学習も含め、普通の授業、家庭学習での活用等計画通りに進んだ。保護者アンケート結果でご家庭の理解を得ていることを確認した。また、長期休暇中の家庭学習をポータルサイト「もぐとかげの森」や学習支援アプリ「学びポケット」を利用して、学習進捗の確認を行う教科があった。 |



iPadを使った授業

## 中期計画以外の取り組み

| 事業計画                                        | 事業報告                                              |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| ユニークな教室・教場・施設・設備配置に見合った教育内容(カリキュラム)改革を始動する。 | 教員全員が、授業や教育活動において自身の研究テーマを中心に教育内容のバージョンアップに取り組んだ。 |

## ■ 幼稚園

## 中期計画目標

新しい教育を実践できる環境整備。

## 中期計画取り組み

①ネットワーク環境の充実。

| 事業計画                                       | 事業報告                                                                         |
|--------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 情報システム室の協力を得ながら、Wi-Fi環境整備等の要件整理及び導入計画を考える。 | 【実施見送り】<br>将来的には、より充実した整備が必要だが、当面必要な環境整備は行われていると判断し、新たな整備・導入計画はしばらく見送ることとした。 |

## ■ 法人事務局

## 中期計画目標

- 1) 学園グラウンドデザインを踏まえた中長期修繕計画の再構築。
- 2) 学園内自然環境(樹木)の維持管理計画の策定。

## 中期計画取り組み

1) 中長期修繕計画。

| 事業計画                                                  | 事業報告                                        |
|-------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 長期視点(30年程度)に立った経年進行する建物・設備系統における劣化の実態を把握し、概算費用の算出を行う。 | 各校舎ごと、延命改修工事費の算出及び築年数順による改修スケジュール計画の作成を行った。 |

## 中期計画取り組み

2) 自然環境の維持管理計画。

| 事業計画                                                  | 事業報告                                       |
|-------------------------------------------------------|--------------------------------------------|
| 学園内の樹木について(樹木)台帳を作成するとともに2024年度までの剪定計画及び対応費用の概算を算出する。 | 学園内各所の樹木番号札及び測定を実施し、台帳を作成するとともに、剪定計画を策定した。 |

## V. 財務計画

### ■ 法人事務局

#### 中期計画目標

- 1) 中長期における財務目標の構築と実践。
- 2) 新規収益事業等の検討と実施。
- 3) 新たな募金活動計画の策定と実施。

#### 中期計画取り組み

- 1) 中長期財務目標の構築と実践。  
①「新中長期財務計画」の見直しと保持。

| 事業計画                                                       | 事業報告                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2021年5月時点の学生・生徒数を基にした校納金収入他、直近の補助金収入等を基に「新中長期財務計画21」を更新する。 | 2021年5月の在籍者数を基にシミュレーションした結果を盛り込んだ「中期財務計画22」を策定。財務委員会を経て9月開催の理事会、評議員会にて承認を得た。<br>また、2022年度の予算編成については、本財務計画に基づき基本方針を策定し、2022年3月開催の理事会、評議員会で承認を得た。 |

#### 中期計画取り組み

- 1) ②長期(10年)における財務目標の策定。

| 事業計画                                              | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「新中長期財務計画21」をベースに他学園と本学の財務構造について分析し、財務改善の方策を検討する。 | 2021年9月策定の「中期財務計画22」をベースに、五学園及び主要大学法人の財務データを分析し、本学にとって実行可能(現実的)な財務目標を検討した。本学においては、2020年度、2021年度はコロナ禍が要因となり事業計画の変更を余儀なくされている。他学園も同様に、2020年度の財務データはコロナ禍の影響を受けており、ともに長期財務計画のベースとする平時の財務データとは異なることが想定されることから、当初の計画を1年延長し、2021年度、2022年度のデータを基に、分析を継続することとした。 |

#### 中期計画取り組み

- 1) ③新たな単年度事業計画作成(予算編成)方法の策定と実施。

| 事業計画                                        | 事業報告                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「新中長期財務計画21」の2年目となる2022年度の単年度計画を見直す準備期間とする。 | 2021年9月策定の「中期財務計画22」に基づき、令和4(2022)年度予算を策定し、2022年3月開催の理事会、評議員会にて承認を得た。2022年度予算は、従前の予算立案方針を保持しつつ、学生生徒等納付金収入の増収等を勘案した上で予算を編成した。支出予算においては、中期計画で設けた支出基準額(上限額)を遵守しつつ、各学校長等の裁量により支出可能な予算を増額するなど、各校の裁量を重視した新たな方法で予算編成を実施した。 |



## 中期計画取り組み

## 2) 新規収益事業等の検討・実施。

| 事業計画                                                             | 事業報告                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スモールスタート(小規模展開)を前提に実施可能な事業を洗い出し、各事業の実施可能性を調査、検討し、収益事業計画の概要を立案する。 | 学園内の各種事業において、収益事業として実施可能な事業の洗い出し、内容整理を実施するとともに関連業務の効率化を図り、その収益性について検討した。結果、新規収益事業の立ち上げを前提にするものの、昨今の他大学の実情を踏まえ、当面は、従前から実施している各事業(教室他・施設利用等貸出等の付随事業)の範囲内で、必要経費の徴収により収入増を目指すこととした。 |

## 中期計画取り組み

## 3) 新たな募金活動。

| 事業計画                                                                                                         | 事業報告                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「未来募金報告書」の作成と反省を行うとともに、募金委員会(常設)にて、新たな募金方式(目的、組織、集金方法等)を策定する。</p> <p>入学寄付率向上に向け、Web決済等の新たな施策を検討・実施する。</p> | <p>募金委員会にて新たな募金活動について検討し、素案を作成した。</p> <p>大学と中高で入学寄付のWeb決済を導入し、例年より寄付額が約15%向上した。</p> |

## VI. 組織・運営体制 (1) 新時代に対応できる教職員の育成

### ■ 法人事務局

#### 中期計画目標

- 1) 教員評価制度の構築。
- 2) 職員人事評価制度の運用と再評価。
- 3) 事務業務の効率化を踏まえた事務組織改変計画の実施。
- 4) 事務業務のデジタルシフト。

#### 中期計画取り組み

- 1) 教員評価制度の構築。

| 事業計画                                           | 事業報告                                                                                       |
|------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学園経営執行会議の下、制度構築に向けた部門別プロジェクト・チームを創設し、課題の抽出を行う。 | 幼初中高で検討している働き方改革の進捗を踏まえ、人事課内で教員評価制度に関する方向性を確認した。今後は、職員評価制度をたたき台とする手引き等の作成に向け、各校との協議を進めていく。 |

#### 中期計画取り組み

- 2) 職員人事評価制度の運用と再評価。

| 事業計画                                                                                                                         | 事業報告                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 試行期間中に生じた制度の問題点等の洗い出しを行い、運用の適正化に向けた準備を行う。また考課者の育成を目的として研修を引き続き実施していく。被評価者の評価の経年推移の確認等を人事評価委員会で実施。人事異動や組織のあり方と連動した評価体制の検証を行う。 | 手引きを含む諸規則の見直しに向け、人事課内で課題の洗い出し作業を進めた。また、今後の評価制度のあり方についての検討を行った。 |

#### 中期計画取り組み

- 3) 事務業務の効率化と組織改変計画。

| 事業計画                                                                 | 事業報告                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 法人事務局長の下、プロジェクト・チームを創設し、現組織の課題を抽出するとともに、3～5年間に実施可能な学園事務組織の改変計画を策定する。 | 中期財務計画に則した2022年度以降5年間の人件費を算出し総枠を踏まえた職員採用計画の検討を行うとともに、有期職員採用の今後のあり方について検討を行った。 |

#### 中期計画取り組み

- 4) 事務業務のデジタルシフト。

| 事業計画                                                                            | 事業報告                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| 法人事務局内の書類の現状の洗い出しとワークフロー化の可否選別を行い、実現可能な部分から順次ペーパーレス化を行う。既にワークフロー化されている書式の検証を行う。 | 法人事務局内(除：各校)の稟議決裁に関し、2022年度から電子化(ワークフロー)の運用に向けた準備及び稼働テストを完了した。 |

## 組織・運営体制 (2) 安全な学園(防災、防犯、感染症対策)

## ■ 法人事務局

## 中期計画目標

- 1) 有事マニュアルの再評価。
- 2) 防災訓練・緊急時対応講習の計画的実施。
- 3) 学園内(全体)警備体制の強化。

## 中期計画取り組み

- 1) 有事マニュアルの再評価。

| 事業計画                                                          | 事業報告                                          |
|---------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 地震・火災・防犯等の発生事案に即した対応のほか、ライフライン(電気・ガス・水道)停止時のBCP対応について対策を策定する。 | 学園危機管理マニュアル(たたき台)を評価しつつ、設置可能な箇所に学園避難マップを掲示した。 |

## 中期計画取り組み

- 2) 防災訓練・緊急時対応講習の実施。

| 事業計画                              | 事業報告                                                                 |
|-----------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| 防災訓練のあり方を再検討し、実践に即した訓練計画を策定し実施する。 | コロナ禍での消防訓練、災害訓練等の技術指導は実施困難であると判断し、教職員向けのオンデマンド防災研修を検討し、動画コンテンツを作成した。 |

## 中期計画取り組み

- 3) 警備体制の強化。

| 事業計画                  | 事業報告                                     |
|-----------------------|------------------------------------------|
| 既存警備体制を再評価し、課題の抽出を行う。 | 日常及び緊急時の連絡体制強化の一環で、業務日誌等のオンラインデータ化を完了した。 |

### 3. 事業の概要

#### 組織・運営体制 (3) ガバナンス体制の強化

##### ■ 大学

###### 中期計画目標

内部質保証システムの再構築を推進する。

###### 中期計画取り組み

- ①自己点検・評価活動の推進と認証評価受審。
- ②外部評価委員会の活用。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・各部局等組織におけるPDCAサイクルと内部質保証委員会における全学的なPDCAサイクルが有機的に結びついた内部質保証システムを機能させる。</li><li>・2022年度の認証評価受審に向けた「自己点検・評価報告書」を作成する。</li><li>・各部局等組織及び全学自己点検・評価委員会が取りまとめた報告書等を基に、学外の学識経験者等で構成される外部評価委員会において、本学が実施する内部質保証の有効性等について検証を実施し、その結果を参考にしながら、内部質保証委員会の各部局等組織への「提言」（指示・支援）をまとめる。</li></ul> | <p>2021年5月から6月にかけて、各部局等組織において「自己点検・評価チェックシート」を活用して、点検・評価を行い、これを基に、全学自己点検・評価委員会では全学的な観点からの点検・評価を行ったうえ、「自己点検・評価報告書（仮原稿）」を7月に取りまとめた。本報告書（仮原稿）は、その後、内部質保証委員会に提出され、8月～9月にかけて外部評価委員会による検証が行われた。</p> <p>これを踏まえ、10月には、内部質保証委員会から、各部局等組織に対して「提言」を行った。</p> <p>また、10月～11月にかけては、再度、各部局等組織においてチェックシートを活用した点検・評価を行い、その後、全学自己点検・評価委員会において、「自己点検・評価報告書（本原稿）」及び各種根拠資料を作成した。それらは、内部質保証委員会等による確認・審議を経たうえ、最終的に大学評議会で承認され、3月末に大学基準協会へ評価資料一式を提出した。</p> |

##### ■ 法人事務局

###### 中期計画目標

中期計画の評価・改善（PDCA）を実践できる体制を整備し、学校長のリーダーシップの下で中期計画を確実に実現する。

###### 中期計画取り組み

- ①評価・改善体制の整備。

| 事業計画                                                                                      | 事業報告                                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 学園横断の中期計画点検委員会（仮称）を設置する。点検委員会（仮称）と後述する年度「事業計画」「事業報告」を組み合わせ、期初・中間・期末で中期計画の進捗状況を確認する仕組みを作る。 | 事業計画点検委員会を設置し、中期計画に基づく単年度事業計画の進捗管理を当初予定通り実施した。 |

###### 中期計画取り組み

- ②事業計画、事業報告、予算との連動。

| 事業計画                                                                                                       | 事業報告                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 「2021年度 事業計画」について「中期計画21」をベースとした書式に変更する。単年度の「事業計画」「事業報告」と前述の点検委員会（仮称）を組み合わせ、期初・中間・期末で中期計画の進捗状況を確認する仕組みを作る。 | 「事業計画」及び「事業報告」の書式を変更した。またチェックシートも導入し、計画遂行・進捗の一覧性を持たせた。 |

## 中期計画目標

寄附行為改正/2020年(役員の定数と選任方法の見直し)に伴うガバナンス体制の構築(改善)と定着。

## 中期計画取り組み

- ①理事会・評議員会として議事運営体制の再評価と改善対応。
- ②権限委譲を含む学内諸規則の再評価と改善。

| 事業計画                                                                | 事業報告                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 理事会・評議員会の議事運営体制について再評価を行う。<br>権限委譲を含む学内諸規則の再評価を行い、改善に向けた規則改正等を検討する。 | 懸案となっていた評議員会議長のあり方について、評議員会議長を明文化したほか、文部科学省寄附行為作成例(R3/6)を踏まえ、議事録及び電磁的処理に関する事項等について寄附行為改正案を作成し、評議員会、理事会にて承認を得た。併せて「評議員会議長及び副議長選出規程」を制定した。 |

## 組織・運営体制 (4) 広報戦略

## 大 学

## 中期計画目標

広報・募集活動を強化し、大学のアドミッションポリシーに基づく募集活動を目指す。

## 中期計画取り組み

- ①入試改革の一環として、多面的・総合的入試選抜制度の導入を検討し、成城大学独自の選抜方式を開拓する。

| 事業計画  | 事業報告                                                                                          |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 検討開始。 | 【未達：進捗率20%】<br>多面的な評価の導入に向けて、業者から評価支援システムについての説明を受けた。現状の選抜の方法を踏まえ、まずは総合型選抜での導入を中心に引き続き検討していく。 |

## 中期計画取り組み

- ②ステークホルダーへの情報発信の強化。

| 事業計画                                                                                                                                            | 事業報告                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 本学の教育環境や学生の実態、現在進行中の教育改革や各種取り組み等を分かりやすく伝えることを目的とした冊子である「データブック」の作成に向けた検討を行う。また、試行的に、本学における学習成果等を分析し、平易に記述したレポートを大学ホームページにて公表し、冊子作成のためのデータを蓄積する。 | 「データブック」の作成に向けて、学生向けの各種標準テストやアンケート結果などの分析を行い、本学の長所や課題等を抽出するためのデータを蓄積した。 |

## 中期計画取り組み

- ③開設80周年(2030年)事業の検討開始。

| 事業計画                     | 事業報告 |
|--------------------------|------|
| 80周年事業の実施の有無も含めた検討を開始する。 | 未着手  |



### 3. 事業の概要

#### 組織・運営体制 中期計画以外の事業計画

経済学部：広報戦略等

| 事業計画                                                                                                                                                     | 事業報告                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①入学者選抜に関する検討（継続）<br>入学者選抜方式についての見直しや入学者選抜に係る広報戦略等についても検討する。<br>②大学院進学志向の醸成（継続）<br>大学院への進学を推進するための学部段階での学生への指導、情報提供の方策等を検討する。<br>③ウェブサイトの更新及び学部紹介動画作成（継続） | <b>【未達：進捗率70%】</b><br>①既に実施している総合型選抜（AO入試）の見直しは継続して行う。<br>②ゼミを通して、あるいは説明会の実施などにより情報周知を図っているが十分ではない。<br>③学部紹介ビデオについては今年度更新を行った。<br>④その他、在学生が母校を訪問し、近況報告と情報収集を行ってもらった広報活動を始めた。 |

文芸学部：広報戦略等

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                | 事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①入学者選抜に関する検討（継続）<br>総合型選抜（AO入試）の見直し及び新規導入等、各学科の入学者選抜方式について検討するほか、入学前教育についての情報共有、入学者選抜に係る広報戦略等についても検討する。<br>②大学院進学志向の醸成（継続）<br>大学院への進学を推進するための学部段階での学生への指導、情報提供の方策等を検討する。<br>③ウェブサイトの更新及び学部紹介動画作成（継続）<br>文芸学部紹介の動画を作成し、ウェブサイトで公開する。<br>④文芸学部創立70周年（2024年）事業の検討開始（新規） | <b>&lt;文芸学部&gt;</b><br>①各学科の入学者選抜方式について検討し、主任会において各学科入学前教育の情報共有をした。<br>②文学研究科が開催している進学相談会への積極的な参加を授業を通して学生に呼びかけた。オンラインでの開催に伴い参加者は増加している。<br>③文芸学部紹介動画を作成した。<br>④文芸学部創立70周年記念実施委員会を開催し、各種データによる文芸学部の現状分析を行い、「文芸学部創立70周年記念事業案」及び「文芸学部創設70周年記念事業骨子（草案）」を作成した。<br><br><b>&lt;文学研究科&gt;【未達：進捗率50%】</b><br>②について：進学相談会のオンライン化実施の効果を確認し、今後の実施方法や内容について専攻主任会議で検討した。 |

#### 法人事務局

##### 中期計画目標

- 1) 各校の求める生徒・学生像や輩出する人材の明示。
- 2) 利便性を考えたデジタルと対面（相談会・見学会）の有効利用。
- 3) 媒体の効果的活用。

##### 中期計画取り組み

- ①公式サイトの再構成（検索システム構築含む）。

| 事業計画                                                                                              | 事業報告                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 大学サイト（主にトップページ）を改修・リニューアルし、運用を行う。<br>中高サイトを分析し、リニューアルに向けた検討を行う。<br>2022年度にリニューアルをすべく幼稚園サイトの分析を行う。 | 大学サイトのトップページリニューアルを済ませ、順調に運用している。<br>中高サイトも分析し、来年度トップページを中心としたリニューアルを予定している。幼稚園サイトについても、今後のリニューアルを見据えた分析を実施した。なお、初等学校サイトについては昨年度、諸々修正を済ませている。 |

## 中期計画取り組み

## ②動画サイト、SNS、デジタル広告の活用。

| 事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 事業報告                                                                                    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| ①説明会動画のオンデマンド化（幼～高）実施<br>・幼、初、中高と協力し、各校の説明会動画を作成・配信する。<br>②説明会告知媒体のデジタル化の検討<br>・Google検索やSNSでの学校説明会の告知を、時期、配信時間、回数等を計画的に発信する。<br>・オウンドメディア以外で説明会告知を行えるデジタル媒体を探し、駅貼りポスターからの移行を検討する。<br>③マス媒体との連動を検討<br>・年1回以上の「取材記事」掲載を目指し、プレスリリースを年間20本以上配信する。<br>④その他<br>・大学「note」開設。「成城彩論」を転載し研究力を発信。「成城彩論」年3本以上掲載。<br>・大学受験生向け「LINE」（2020年開設）の継続・充実。 | 学校説明会告知のデジタル化、動画配信、SNSの活用など、当初計画通りに実施できた。コロナ禍で学校説明会等が変則的になる中、むしろデジタル媒体の活用によって、柔軟に対応できた。 |

## その他 中期計画以外の事業計画

## ■ 初等学校

| 事業計画                                                                                  | 事業報告                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コロナ禍で問題提起された「アフターコロナ」対応学校制度改革の研究（「9月始業・9月入学」等）。<br>・児童・保護者・教職員の健康と安全を守る防犯・防災・防疫対策万全化。 | なかなかアフターコロナの見通しを持ってない中で、児童はじめ関係者の健康と安全を守る対策を徹底することを優先した。実験的な取り組みであったが、教員志望の大学生等に「学びサポーター」をお願いし、児童の学習面や生活面での支援に当たってもらい、教育効果を上げた。 |

## ■ 法人事務局

| 事業計画                                        | 事業報告                                                                                                                     |
|---------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2020年度で募集を終了した「創立100周年 未来募金」の実績報告書作成及び銘板設置。 | 7月末に事業報告書を完成させ8月に寄付者へ送付したほか、銘板を8月25日に歴史記念館外壁へ設置した。<br>加えて、3月27日には、未来募金寄付者を招待し、ご寄付により建設・改修した施設等の見学と学園内散策を楽しんでいただく催しを開催した。 |



未来募金寄付者への感謝の催し

## 4. 財務の概要

## ■ 学校法人会計基準について（企業会計との比較）

国又は地方公共団体から経常費等の補助を受ける学校法人は、私立学校振興助成法第14条により、文部科学大臣が定める基準「学校法人会計基準」に従い、計算書類（貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類）を作成し、公認会計士又は監査法人の監査報告書を添付して所轄庁へ提出することが義務付けられています。

一般的な企業会計では、一定の期間を人為的に区切った会計期間ごとの損益計算によって、企業の経営状況を明らかにすることを目的としています。これに対し学校法人会計は、学校法人の安定的かつ持続性保持のため、中長期的な収支の均衡を目的としています。

## 〔1〕資金収支計算書

(単位：百万円)

| 収入の部          | 予 算     | 決 算     | 差 異     |
|---------------|---------|---------|---------|
| ① 学生生徒等納付金収入  | 8,578   | 8,744   | △ 166   |
| ② 手数料収入       | 323     | 414     | △ 91    |
| ③ 寄付金収入       | 170     | 243     | △ 74    |
| ④ 補助金収入       | 1,163   | 1,206   | △ 43    |
| ⑤ 資産売却収入      | 1,580   | 1,980   | △ 400   |
| ⑥ 付随事業・収益事業収入 | 3       | 4       | △ 1     |
| ⑦ 受取利息・配当金収入  | 76      | 81      | △ 6     |
| ⑧ 雑収入         | 335     | 358     | △ 23    |
| 借入金等収入        | 1       | 0       | 0       |
| ⑨ 前受金収入       | 1,642   | 1,847   | △ 206   |
| ⑩ その他の収入      | 301     | 283     | 17      |
| ⑪ 資金収入調整勘定    | △ 2,007 | △ 2,172 | 166     |
| A) 前年度繰越支払資金  | 7,525   | 8,512   | △ 987   |
| 収入の部合計        | 19,690  | 21,502  | △ 1,812 |

- ① 授業料、入学金、施設費及び施設維持費、教育充実費、実験実習料等
- ② 入学検定料、証明手数料等
- ③ 各校入学寄付、教育研究振興資金等特別寄付
- ④ 経常費補助金、施設設備費等補助金等
- ⑤ 施設・設備、有価証券の売却収入
- ⑥ 補助活動、受託事業等の収入
- ⑦ 特定資産を含む資産の運用による収入
- ⑧ 退職金財団交付金、研究費間接経費、施設利用料等
- ⑨ 2022年度入学生の入学金、授業料等
- ⑩ 前会計年度未収入金の当該年度における収入、税金等預り金等
- ⑪ 期末未収入、前期末前受金等
- A) 前年度末の現預金残高に一致
- ⑫ 学校法人との雇用契約に基づく教職員等への支出。役員報酬、退職金を含む。
- ⑬ 教育研究のために要する経費
- ⑭ 教育研究経費以外の経費
- ⑮ 土地、建物(含 建物付帯設備)、構築物等施設の取得に係る支出
- ⑯ 機器備品(含 リース資産)、図書等設備の取得に係る支出
- ⑰ 資産運用を目的とした金融資産の取得に係る支出
- ⑱ 前会計年度未払金の当該年度における支出、税金等預り金支払額等
- ⑲ 期末未払金、前期末前払金等
- B) 当年度末の現預金の残高に一致

| 支出の部         | 予 算    | 決 算    | 差 異     |
|--------------|--------|--------|---------|
| ⑫ 人件費支出      | 6,572  | 6,431  | 141     |
| ⑬ 教育研究経費支出   | 2,485  | 2,130  | 355     |
| ⑭ 管理経費支出     | 539    | 565    | △ 26    |
| 借入金等利息支出     | 24     | 23     | 0       |
| 借入金等返済支出     | 261    | 261    | 0       |
| ⑮ 施設関係支出     | 164    | 182    | △ 18    |
| ⑯ 設備関係支出     | 276    | 195    | 80      |
| ⑰ 資産運用支出     | 1,790  | 3,511  | △ 1,721 |
| ⑱ その他の支出     | 579    | 773    | △ 194   |
| 〔予備費〕        | (0)    |        |         |
|              | 300    |        | 300     |
| ⑲ 資金支出調整勘定   | △ 619  | △ 865  | 246     |
| B) 翌年度繰越支払資金 | 7,319  | 8,296  | △ 977   |
| 支出の部合計       | 19,690 | 21,502 | △ 1,812 |

※各項目別に金額を表示単位未満で四捨五入しているため、予算と決算の差額、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

資金収支計算書は、

- ①当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容
- ②当該年度に係る支払資金（現金及びいつでも引き出せる預貯金）の収入・支出のてん末を明らかにしています。

## 〔2〕活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

| 科 目                                     | 金 額          |
|-----------------------------------------|--------------|
| <b>■ 教育活動による資金収支</b>                    |              |
| 教育活動資金収入計                               | 10,953       |
| 教育活動資金支出計                               | 9,126        |
| 差引                                      | 1,827        |
| 調整勘定等                                   | △ 9          |
| 教育活動資金収支差額                              | 1,819        |
| <b>■ 施設整備等活動による資金収支</b>                 |              |
| 施設整備等活動資金収入計                            | 17           |
| 施設整備等活動資金支出計                            | 578          |
| 差引                                      | △ 560        |
| 調整勘定等                                   | 47           |
| 施設整備等活動資金収支差額                           | △ 513        |
| <b>小 計</b> (教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額) | <b>1,306</b> |

活動区分資金収支計算書は、学校法人の活動を以下の3つに区分し、各活動における収支のバランスを明らかにしています。

- ①教育活動 学校本来の活動である教育研究活動の収支状況
- ②施設整備等活動 施設設備関係への投資状況を明確化
- ③その他の活動 借入金などの資金調達や資金の運用状況等を明確化

| 科 目                                 | 金 額          |
|-------------------------------------|--------------|
| <b>■ その他の活動による資金収支</b>              |              |
| その他の活動資金収入計                         | 2,075        |
| その他の活動資金支出計                         | 3,596        |
| 差引                                  | △ 1,522      |
| 調整勘定等                               | 0            |
| その他の活動資金収支差額                        | △ 1,522      |
| <b>支払資金の増減額</b> (小計 + その他の活動資金収支差額) | <b>△ 216</b> |
| <b>前年度繰越支払資金</b>                    | <b>8,512</b> |
| <b>翌年度繰越支払資金</b>                    | <b>8,296</b> |

※各項目別に金額を表示単位未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

収入では、大学新入生数の増による学生生徒等納付金収入の増収等により、予算比で増収となりました。支出では、人件費支出や新型コロナウイルス感染症の影響による教育研究経費支出の減額等により、予算比で支出減となりました。当年度の支払資金の増減額は2億1,600万円の減額となり、翌年度繰越支払資金は82億9,600万円となりました。

## 令和3(2021)年度主要支出項目

(単位：千円)

| 内 容                            | 支出額            |
|--------------------------------|----------------|
| <b>■ 教育環境整備事業費</b>             | <b>111,538</b> |
| 中学校高等学校 部室エリア改修工事              | 98,888         |
| 初等学校 体育館空調設備工事                 | 12,650         |
| <b>■ 国際教育関係費</b>               | <b>70,798</b>  |
| 学園 英語一貫教育推進事業費                 | 29,157         |
| 大学 国際センター交換留学生奨学金等             | 9,385          |
| 大学 海外研究者・受入交換留学生向け国際学生寮関係経費    | 27,799         |
| 大学 その他国際交流関係費                  | 4,457          |
| <b>■ 情報一貫推進事業及びICT教育環境整備費等</b> | <b>85,675</b>  |
| 学園 情報一環推進事業                    | 1,871          |
| 大学 データサイエンス教育研究センター関連経費        | 6,261          |
| 大学 ICT教育環境整備関連経費               | 59,382         |
| 中学校高等学校 ICT教育環境整備関連経費          | 17,348         |
| 各校 ICT教育環境整備関連経費               | 813            |
| <b>■ 学内奨学金関連経費</b>             | <b>186,600</b> |
| 大学 高等教育修学支援制度に伴う授業料減免          | 137,599        |
| 大学 奨学金制度・提携ローン援助金              | 47,351         |
| 中学校高等学校 海外留学生奨学金制度             | 1,650          |

| 内 容                       | 支出額           |
|---------------------------|---------------|
| <b>■ 安全対策・危機管理関係経費</b>    | <b>20,289</b> |
| 情報セキュリティ対策強化費             | 2,297         |
| 災害対応関係経費                  | 5,450         |
| 防火設備点検等                   | 3,172         |
| 大学 図書館火災報知機設備更新           | 2,380         |
| その他の安全対策経費                | 6,990         |
| <b>■ 省エネルギー対策経費</b>       | <b>2,068</b>  |
| 法人事務局棟LED化改修工事            | 2,068         |
| <b>■ 創立100周年事業関係経費</b>    | <b>22,730</b> |
| 教育研究所 「成城学園百年史」編纂関係経費     | 6,841         |
| 未来募金 活動報告書及び感謝の会等関連経費     | 15,889        |
| <b>■ 新型コロナウイルス感染症対策費</b>  | <b>43,627</b> |
| 大学 入試対応経費・オンラインオープンキャンパス等 | 14,527        |
| 給食施設運営補助金                 | 14,961        |
| その他の対策費                   | 14,139        |
| <b>■ その他の事業</b>           | <b>1,954</b>  |
| 杉の森館 恐竜・化石ギャラリー関連経費       | 1,228         |
| 歴史記念館関連経費                 | 726           |



## 4. 財務の概要

### 〔3〕事業活動収支計算書

(単位：百万円)

| 科 目             | 予 算           | 決 算           | 差 異          |
|-----------------|---------------|---------------|--------------|
| <b>教育活動収支</b>   |               |               |              |
| 学生生徒等納付金        | 8,578         | 8,744         | △ 166        |
| 手数料             | 323           | 414           | △ 91         |
| ① 寄付金           | 160           | 232           | △ 72         |
| 経常費等補助金         | 1,159         | 1,203         | △ 43         |
| 付随事業収入          | 3             | 4             | △ 1          |
| 雑収入             | 335           | 358           | △ 23         |
| <b>教育活動収入計</b>  | <b>10,559</b> | <b>10,955</b> | <b>△ 396</b> |
| ② 人件費           | 6,600         | 6,412         | 188          |
| ③ 教育研究経費        | 3,577         | 3,225         | 352          |
| ④ 管理経費          | 635           | 646           | △ 11         |
| ⑤ 徴収不能額等        | 0             | 1             | △ 1          |
| <b>教育活動支出計</b>  | <b>10,811</b> | <b>10,284</b> | <b>527</b>   |
| <b>教育活動収支差額</b> | <b>△ 252</b>  | <b>672</b>    | <b>△ 924</b> |

|                  |           |           |            |
|------------------|-----------|-----------|------------|
| <b>教育活動外収支</b>   |           |           |            |
| 受取利息・配当金         | 76        | 81        | △ 6        |
| その他の教育活動外収入      | 0         | 0         | 0          |
| <b>教育活動外収入計</b>  | <b>76</b> | <b>81</b> | <b>△ 6</b> |
| 借入金利息            | 24        | 23        | 0          |
| その他の教育活動外支出      | 0         | 0         | 0          |
| <b>教育活動外支出計</b>  | <b>24</b> | <b>23</b> | <b>0</b>   |
| <b>教育活動外収支差額</b> | <b>52</b> | <b>58</b> | <b>△ 6</b> |

|               |              |            |              |
|---------------|--------------|------------|--------------|
| <b>経常収支差額</b> | <b>△ 200</b> | <b>729</b> | <b>△ 929</b> |
|---------------|--------------|------------|--------------|

|              |           |           |             |
|--------------|-----------|-----------|-------------|
| <b>特別収支</b>  |           |           |             |
| ⑥ 資産売却差額     | 0         | 0         | 0           |
| ① その他の特別収入   | 14        | 20        | △ 6         |
| <b>特別収入計</b> | <b>14</b> | <b>20</b> | <b>△ 6</b>  |
| ⑦ 資産処分差額     | 4         | 47        | △ 43        |
| その他の特別支出     | 0         | 0         | 0           |
| <b>特別支出計</b> | <b>4</b>  | <b>47</b> | <b>△ 43</b> |

|               |           |             |           |
|---------------|-----------|-------------|-----------|
| <b>特別収支差額</b> | <b>10</b> | <b>△ 27</b> | <b>37</b> |
|---------------|-----------|-------------|-----------|

|                  |                 |                |                |
|------------------|-----------------|----------------|----------------|
| (予備費)            | (0)             |                |                |
|                  | 200             |                | 200            |
| 基本金組入前当年度収支差額    | △ 390           | 703            | △ 1,093        |
| ⑧ 基本金組入額合計       | △ 727           | △ 619          | △ 108          |
| 当年度収支差額          | △ 1,117         | 84             | △ 1,200        |
| 前年度繰越収支差額        | △ 9,348         | △ 8,737        | △ 610          |
| 基本金取崩額           | 0               | 0              | 0              |
| <b>翌年度繰越収支差額</b> | <b>△ 10,465</b> | <b>△ 8,654</b> | <b>△ 1,811</b> |

(参考)

|         |        |        |       |
|---------|--------|--------|-------|
| 事業活動収入計 | 10,649 | 11,057 | △ 408 |
| 事業活動支出計 | 11,039 | 10,354 | 684   |

※各項目別に表示単位未満で四捨五入しているため、予算と決算の差額、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

学生生徒等納付金などの収入増や、人件費、新型コロナウイルス感染症の影響等による教育研究経費の減額等により、教育活動収支差額が予算を上回った結果、経常収支差額は予算比で9億2,900万円増の7億2,900万円となりました。特別収支差額は、予算比で3,700万円の減額となった結果、基本金組入前当年度収支差額は、7億300万円となり、予算比で10億9,300万円の増額となりました。基本金組入額は予算比で1億800万円の減額となり、当年度収支差額は8,400万円の収入超過となりました。この結果、翌年度繰越収支差額(支出超過額)は86億5,400万円となりました。

- ① 寄付金(含 現物寄付)  
施設設備に関する現物寄付は「特別収支」、その他固定資産としない備品、雑誌等は「教育活動収支」に計上
- ② 人件費  
退職給与引当金繰入額を含む
- ③ 教育研究経費  
教育研究用資産の減価償却額を含む
- ④ 管理経費  
教育研究用以外の資産の減価償却額を含む
- ⑤ 徴収不能額等  
学生生徒納付金の未収入分に対する徴収不能引当金繰入額、徴収不能額
- ⑥ 資産売却差額  
固定資産等の売却時、簿価より高く売却した場合の差額(収入)
- ⑦ 資産処分差額  
固定資産等を処分した際の除却簿価
- ⑧ 基本金組入額  
学校法人が教育研究活動に必要な資産(=基本金)を継続的に保持するために維持すべきものとして、事業活動収入から組み入れる額

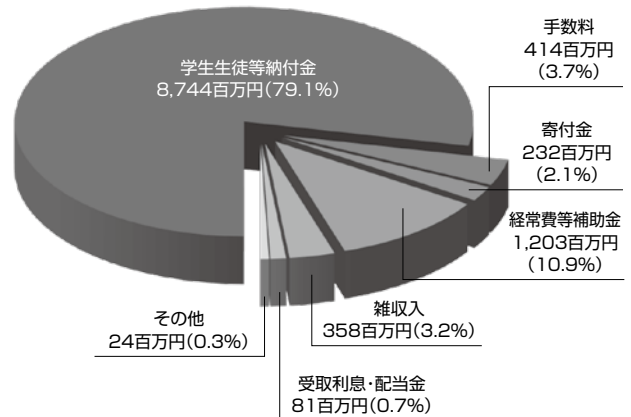
事業活動収支計算書は、学校法人の活動を

- ①(経常的)教育活動
- ②(経常的)教育活動外
- ③(臨時的)その他の活動

の3つに区分し、それぞれの事業収支を明らかにするとともに、当該会計年度における基本金組入額を控除した諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡状態を明らかにすることを目的としています。

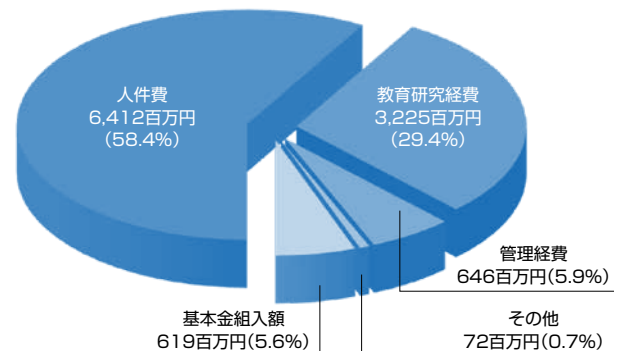
#### 事業活動収入

(総額 110億5,700万円)



#### 事業活動支出・基本金組入額

(総額 109億7,400万円)



※各項目別に金額を百万円未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。



## 〔4〕貸借対照表

(単位：百万円)

| 資産の部          |               |               |              |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 科 目           | 2021年度        | 2020年度        | 増 減          |
| <b>固定資産</b>   | <b>40,373</b> | <b>41,011</b> | <b>△ 638</b> |
| 有形固定資産        | 38,062        | 38,897        | △ 836        |
| 土地            | 9,116         | 9,116         | 0            |
| 建物            | 21,333        | 22,055        | △ 723        |
| 構築物           | 1,333         | 1,397         | △ 64         |
| 教育研究用機器備品     | 700           | 822           | △ 122        |
| 管理用機器備品       | 87            | 56            | 32           |
| 図書            | 5,483         | 5,449         | 34           |
| 車両            | 2             | 2             | △ 1          |
| 建設仮勘定         | 8             | 0             | 8            |
| 特定資産          | 2,256         | 2,054         | 202          |
| 退職給与引当特定資産    | 1,150         | 1,150         | 0            |
| 第2号基本金引当特定資産  | 600           | 400           | 200          |
| 第3号基本金引当特定資産  | 264           | 254           | 10           |
| 学生生徒等支援特定資産   | 160           | 159           | 0            |
| 緑化推進特定資産      | 40            | 39            | 0            |
| その他の特定資産      | 42            | 51            | △ 9          |
| その他の固定資産      | 56            | 60            | △ 4          |
| <b>流動資産</b>   | <b>14,509</b> | <b>13,357</b> | <b>1,152</b> |
| 現金預金          | 8,296         | 8,512         | △ 216        |
| 有価証券          | 5,786         | 4,467         | 1,320        |
| その他の流動資産      | 426           | 378           | 48           |
| <b>資産の部合計</b> | <b>54,882</b> | <b>54,368</b> | <b>513</b>   |

| 負債の部          |              |              |              |
|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 科 目           | 2021年度       | 2020年度       | 増 減          |
| <b>固定負債</b>   | <b>4,368</b> | <b>4,663</b> | <b>△ 295</b> |
| 長期借入金         | 2,512        | 2,772        | △ 260        |
| 退職給与引当金       | 1,833        | 1,852        | △ 19         |
| 長期未払金         | 23           | 39           | △ 16         |
| <b>流動負債</b>   | <b>3,205</b> | <b>3,100</b> | <b>105</b>   |
| 短期借入金         | 261          | 261          | 0            |
| 未払金           | 775          | 666          | 108          |
| 前受金           | 1,847        | 1,851        | △ 4          |
| 預り金           | 322          | 321          | 1            |
| <b>負債の部合計</b> | <b>7,573</b> | <b>7,763</b> | <b>△ 189</b> |

| 純資産の部              |               |               |            |
|--------------------|---------------|---------------|------------|
| 科 目                | 2021年度        | 2020年度        | 増 減        |
| <b>基本金</b>         | <b>55,962</b> | <b>55,343</b> | <b>619</b> |
| 第1号基本金             | 54,366        | 53,957        | 409        |
| 第2号基本金             | 600           | 400           | 200        |
| 第3号基本金             | 264           | 254           | 10         |
| 第4号基本金             | 732           | 732           | 0          |
| 繰越収支差額             | △ 8,654       | △ 8,737       | 84         |
| 翌年度繰越収支差額          | △ 8,654       | △ 8,737       | 84         |
| <b>純資産の部合計</b>     | <b>47,308</b> | <b>46,606</b> | <b>703</b> |
| <b>負債及び純資産の部合計</b> | <b>54,882</b> | <b>54,368</b> | <b>513</b> |

※各項目別に表示単位未満で四捨五入しているため、増減額、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

貸借対照表は、当該年度末（3月末日）における資産、負債、純資産を対象表示することで、学校法人の財政状況を明らかにしています。

## 〔5〕財産目録

(単位：百万円)

| 科 目         | 数量・価額         |        |
|-------------|---------------|--------|
| <b>基本財産</b> | <b>38,117</b> |        |
| 土地          | 352,979.04㎡   | 9,116  |
| 建物          | 113,746.48㎡   | 21,333 |
| 構築物         |               | 1,333  |
| 図書          | 814,537冊      | 5,483  |
| 教具・校具・備品    | 27,703点       | 787    |
| その他         |               | 64     |
| <b>運用財産</b> | <b>16,765</b> |        |
| 預金・現金       |               | 9,402  |
| 有価証券        |               | 6,936  |
| 未収入金        |               | 320    |
| 前払金         |               | 106    |
| 貸付金         |               | 2      |
| 保証金         |               | 0      |
| <b>資産合計</b> | <b>54,882</b> |        |

| 科 目         | 数量・価額        |
|-------------|--------------|
| <b>固定負債</b> | <b>4,368</b> |
| 長期借入金       | 2,512        |
| 退職給与引当金     | 1,833        |
| 長期未払金       | 23           |
| <b>流動負債</b> | <b>3,205</b> |
| 短期借入金       | 261          |
| 前受金         | 1,847        |
| 未払金         | 775          |
| 預り金         | 322          |
| <b>負債合計</b> | <b>7,573</b> |

|                  |               |
|------------------|---------------|
| <b>正味財産（純資産）</b> | <b>47,308</b> |
| （前年度）            | （46,606）      |

※各項目別に表示単位未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

### 〔6〕監査報告書

#### 監事監査報告書

学校法人 成城学園

理事会 御中  
評議員会 御中

私たち学校法人成城学園の監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人成城学園寄附行為第14条の規定に基づき、令和3（2021）年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の教学を含む業務及び財産の状況について監査しました。  
その結果につき下記の通り報告します。

#### 1. 監査方法の概要

監事は、理事会・評議員会その他重要会議に出席するほか、理事から業務の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、関係部署の業務及び財産の状況を調査しました。  
また、会計監査人と連携を取り計算書類につき検討をしました。

#### 2. 監査の結果

学校法人成城学園の業務に関する決定及び執行は適切であり、計算書類すなわち資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しており、業務若しくは財産又は理事の業務執行に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

令和4（2022）年5月16日

学校法人 成城学園

常勤監事 山下祐司



監事

西村 健



監事

村本 弘



## 〔7〕各種財務推移

\*各種財務推移表は、経年比較のため年度の表示を西暦にしています。

## ■ 活動区分資金収支計算書

(単位：百万円)

| 科 目                                     |                     | 2017年度        | 2018年度        | 2019年度        | 2020年度        | 2021年度        |
|-----------------------------------------|---------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| <b>■ 教育活動による資金収支</b>                    |                     |               |               |               |               |               |
| 収入                                      | 学生生徒等納付金収入          | 9,213         | 9,179         | 8,829         | 8,848         | 8,744         |
|                                         | 手数料収入               | 516           | 502           | 400           | 396           | 414           |
|                                         | 特別寄付金収入             | 15            | 57            | 116           | 51            | 16            |
|                                         | 一般寄付金収入             | 167           | 171           | 205           | 130           | 214           |
|                                         | 経常費等補助金収入           | 625           | 929           | 959           | 1,140         | 1,203         |
|                                         | 付随事業収入              | 26            | 30            | 26            | 1             | 4             |
|                                         | 雑収入                 | 416           | 396           | 316           | 319           | 358           |
|                                         | <b>教育活動資金収入計</b>    | <b>10,977</b> | <b>11,264</b> | <b>10,852</b> | <b>10,885</b> | <b>10,953</b> |
| 支出                                      | 人件費支出               | 6,614         | 6,532         | 6,458         | 6,266         | 6,431         |
|                                         | 教育研究経費支出            | 2,426         | 2,459         | 2,496         | 2,501         | 2,130         |
|                                         | 管理経費支出              | 701           | 558           | 551           | 555           | 565           |
|                                         | <b>教育活動資金支出計</b>    | <b>9,741</b>  | <b>9,549</b>  | <b>9,505</b>  | <b>9,322</b>  | <b>9,126</b>  |
| 差引                                      |                     | 1,237         | 1,715         | 1,347         | 1,563         | 1,827         |
| 調整勘定等                                   |                     | △475          | △102          | 194           | 175           | △9            |
| <b>教育活動資金収支差額</b>                       |                     | <b>762</b>    | <b>1,613</b>  | <b>1,541</b>  | <b>1,737</b>  | <b>1,819</b>  |
| <b>■ 施設整備等活動による資金収支</b>                 |                     |               |               |               |               |               |
| 収入                                      | 施設設備寄付金収入           | 295           | 65            | 157           | 259           | 14            |
|                                         | 施設設備補助金収入           | 3             | 0             | 15            | 0             | 4             |
|                                         | 施設設備売却収入            | 0             | 0             | 0             | 2             | 0             |
|                                         | 第2号基本金引当特定資産取崩収入    | 0             | 0             | 1,200         | 0             | 0             |
|                                         | <b>施設整備等活動資金収入計</b> | <b>298</b>    | <b>65</b>     | <b>1,372</b>  | <b>260</b>    | <b>17</b>     |
| 支出                                      | 施設関係支出              | 866           | 1,731         | 1,649         | 530           | 182           |
|                                         | 設備関係支出              | 195           | 161           | 422           | 383           | 195           |
|                                         | 第2号基本金引当特定資産繰入支出    | 200           | 200           | 200           | 200           | 200           |
|                                         | <b>施設整備等活動資金支出計</b> | <b>1,261</b>  | <b>2,091</b>  | <b>2,271</b>  | <b>1,113</b>  | <b>578</b>    |
| 差引                                      |                     | △963          | △2,027        | △899          | △853          | △560          |
| 調整勘定等                                   |                     | 294           | △360          | 147           | △78           | 47            |
| <b>施設整備等活動資金収支差額</b>                    |                     | <b>△669</b>   | <b>△2,387</b> | <b>△751</b>   | <b>△931</b>   | <b>△513</b>   |
| <b>小 計 (教育活動資金収支差額 + 施設整備等活動資金収支差額)</b> |                     | <b>93</b>     | <b>△774</b>   | <b>790</b>    | <b>806</b>    | <b>1,306</b>  |
| <b>■ その他の活動による資金収支</b>                  |                     |               |               |               |               |               |
| 収入                                      | 借入金等収入              | 1             | 1,201         | 1             | 0             | 0             |
|                                         | 有価証券売却収入            | 4,098         | 2,196         | 1,850         | 3,707         | 1,980         |
|                                         | 受取利息・配当金収入          | 154           | 148           | 142           | 108           | 81            |
|                                         | その他                 | 214           | 273           | 215           | 123           | 13            |
|                                         | <b>その他の活動資金収入計</b>  | <b>4,467</b>  | <b>3,818</b>  | <b>2,207</b>  | <b>3,938</b>  | <b>2,075</b>  |
| 支出                                      | 借入金等返済支出            | 157           | 261           | 260           | 261           | 261           |
|                                         | 有価証券購入支出            | 3,894         | 1,400         | 200           | 4,100         | 3,300         |
|                                         | 第3号基本金引当特定資産繰入支出    | 9             | 10            | 10            | 10            | 10            |
|                                         | 特定資産繰入支出            | 9             | 28            | 111           | 42            | 1             |
|                                         | 借入金等利息支出            | 19            | 32            | 29            | 26            | 23            |
|                                         | その他                 | 184           | 218           | 316           | 2             | 1             |
|                                         | <b>その他の活動資金支出計</b>  | <b>4,272</b>  | <b>1,949</b>  | <b>927</b>    | <b>4,441</b>  | <b>3,596</b>  |
| 差引                                      |                     | 196           | 1,870         | 1,280         | △503          | △1,522        |
| 調整勘定等                                   |                     | 0             | 0             | 0             | 0             | 0             |
| <b>その他の活動資金収支差額</b>                     |                     | <b>196</b>    | <b>1,870</b>  | <b>1,280</b>  | <b>△503</b>   | <b>△1,522</b> |
| <b>支払資金の増減額 (小計 + その他の活動資金収支差額)</b>     |                     | <b>289</b>    | <b>1,096</b>  | <b>2,070</b>  | <b>303</b>    | <b>△216</b>   |
| <b>前年度繰越支払資金</b>                        |                     | <b>4,754</b>  | <b>5,043</b>  | <b>6,139</b>  | <b>8,209</b>  | <b>8,512</b>  |
| <b>翌年度繰越支払資金</b>                        |                     | <b>5,043</b>  | <b>6,139</b>  | <b>8,209</b>  | <b>8,512</b>  | <b>8,296</b>  |

※各項目別に表示単位未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

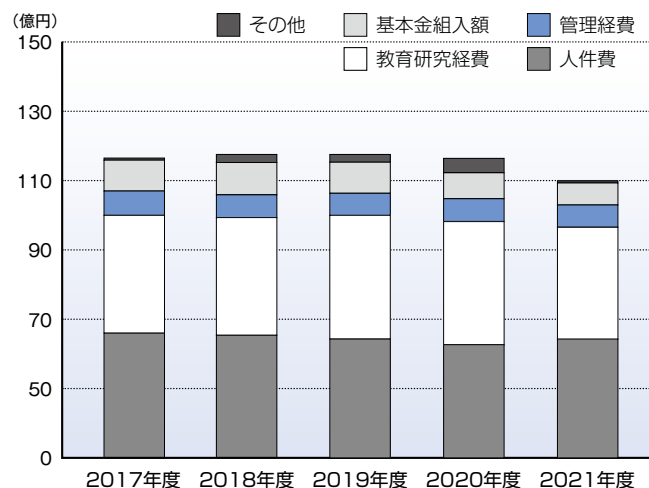
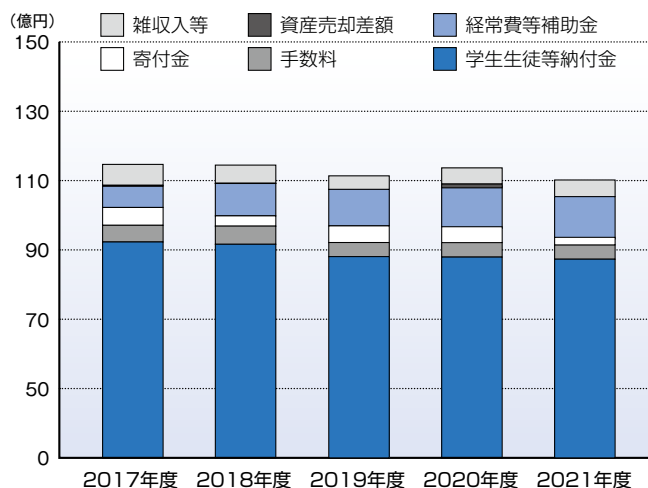
## 4. 財務の概要

### ■ 事業活動収支計算書

(単位：百万円)

| 科 目              | 2017年度        | 2018年度        | 2019年度        | 2020年度        | 2021年度        |
|------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| <b>教育活動収支</b>    |               |               |               |               |               |
| 学生生徒等納付金         | 9,213         | 9,179         | 8,829         | 8,848         | 8,744         |
| 手数料              | 516           | 502           | 400           | 396           | 414           |
| 寄付金              | 187           | 230           | 322           | 183           | 232           |
| 経常費等補助金          | 625           | 929           | 959           | 1,140         | 1,203         |
| 付随事業収入           | 26            | 30            | 26            | 1             | 4             |
| 雑収入              | 416           | 396           | 316           | 319           | 358           |
| <b>教育活動収入計</b>   | <b>10,982</b> | <b>11,267</b> | <b>10,853</b> | <b>10,887</b> | <b>10,955</b> |
| 人件費              | 6,570         | 6,501         | 6,424         | 6,237         | 6,412         |
| 教育研究経費           | 3,387         | 3,435         | 3,570         | 3,592         | 3,225         |
| 管理経費             | 757           | 620           | 620           | 634           | 646           |
| 徴収不能額等           | 0             | 2             | 0             | 2             | 1             |
| <b>教育活動支出計</b>   | <b>10,714</b> | <b>10,559</b> | <b>10,613</b> | <b>10,465</b> | <b>10,284</b> |
| <b>教育活動収支差額</b>  | <b>268</b>    | <b>708</b>    | <b>239</b>    | <b>422</b>    | <b>672</b>    |
| <b>教育活動外収支</b>   |               |               |               |               |               |
| 受取利息・配当金         | 154           | 148           | 142           | 108           | 81            |
| その他の教育活動外収入      | 0             | 0             | 0             | 0             | 0             |
| <b>教育活動外収入計</b>  | <b>154</b>    | <b>148</b>    | <b>142</b>    | <b>108</b>    | <b>81</b>     |
| 借入金等利息           | 19            | 32            | 29            | 26            | 23            |
| その他の教育活動外支出      | 0             | 0             | 0             | 0             | 0             |
| <b>教育活動外支出計</b>  | <b>19</b>     | <b>32</b>     | <b>29</b>     | <b>26</b>     | <b>23</b>     |
| <b>教育活動外収支差額</b> | <b>135</b>    | <b>117</b>    | <b>112</b>    | <b>81</b>     | <b>58</b>     |
| <b>経常収支差額</b>    | <b>403</b>    | <b>825</b>    | <b>351</b>    | <b>504</b>    | <b>729</b>    |
| <b>特別収支</b>      |               |               |               |               |               |
| 資産売却差額           | 4             | 2             | 1             | 106           | 0             |
| その他の特別収入         | 325           | 73            | 177           | 299           | 20            |
| <b>特別収入計</b>     | <b>330</b>    | <b>74</b>     | <b>177</b>    | <b>404</b>    | <b>20</b>     |
| 資産処分差額           | 58            | 199           | 121           | 415           | 47            |
| その他の特別支出         | 0             | 3             | 47            | 2             | 0             |
| <b>特別支出計</b>     | <b>58</b>     | <b>202</b>    | <b>167</b>    | <b>417</b>    | <b>47</b>     |
| <b>特別収支差額</b>    | <b>271</b>    | <b>△128</b>   | <b>10</b>     | <b>△13</b>    | <b>△27</b>    |
| 基本金組入前当年度収支差額    | 675           | 696           | 362           | 491           | 703           |
| 基本金組入額合計         | △860          | △943          | △908          | △732          | △619          |
| 当年度収支差額          | △185          | △246          | △546          | △241          | 84            |
| 前年度繰越収支差額        | △7,519        | △7,704        | △7,950        | △8,496        | △8,737        |
| 基本金取崩額           | 0             | 0             | 0             | 0             | 0             |
| <b>翌年度繰越収支差額</b> | <b>△7,704</b> | <b>△7,950</b> | <b>△8,496</b> | <b>△8,737</b> | <b>△8,654</b> |
| (参考)             |               |               |               |               |               |
| 事業活動収入計          | 11,466        | 11,489        | 11,172        | 11,399        | 11,057        |
| 事業活動支出計          | 10,791        | 10,793        | 10,810        | 10,909        | 10,354        |

※各項目別に表示単位未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。

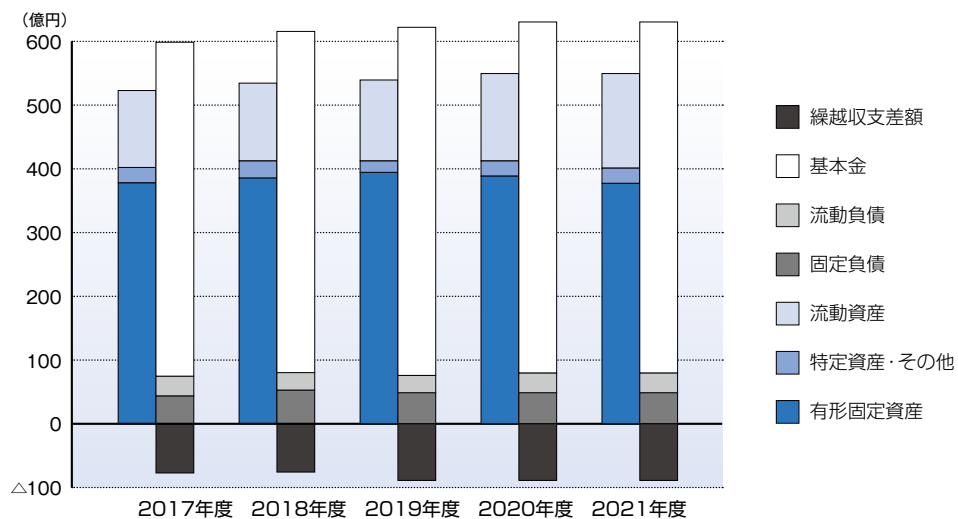


## ■ 貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目          | 2017年度  | 2018年度  | 2019年度  | 2020年度  | 2021年度  |
|--------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| <b>資産の部</b>  |         |         |         |         |         |
| 固定資産         | 40,316  | 41,212  | 41,250  | 41,011  | 40,373  |
| 有形固定資産       | 37,803  | 38,461  | 39,378  | 38,897  | 38,062  |
| 特定資産         | 2,452   | 2,691   | 1,812   | 2,054   | 2,256   |
| その他          | 60      | 61      | 60      | 60      | 56      |
| 流動資産         | 12,188  | 12,444  | 12,691  | 13,357  | 14,509  |
| 資産の部合計       | 52,503  | 53,656  | 53,941  | 54,368  | 54,882  |
| <b>負債の部</b>  |         |         |         |         |         |
| 固定負債         | 4,432   | 5,248   | 4,939   | 4,663   | 4,368   |
| 流動負債         | 3,015   | 2,656   | 2,887   | 3,100   | 3,205   |
| 負債の部合計       | 7,447   | 7,903   | 7,827   | 7,763   | 7,573   |
| <b>純資産の部</b> |         |         |         |         |         |
| 基本金          | 52,761  | 53,703  | 54,611  | 55,343  | 55,962  |
| 繰越収支差額       | △ 7,704 | △ 7,950 | △ 8,496 | △ 8,737 | △ 8,654 |
| 純資産の部合計      | 45,057  | 45,753  | 46,115  | 46,606  | 47,308  |
| 負債及び純資産の部合計  | 52,503  | 53,656  | 53,941  | 54,368  | 54,882  |

※各項目別に表示単位未満で四捨五入しているため、合計などにおいて差異が生じる場合があります。





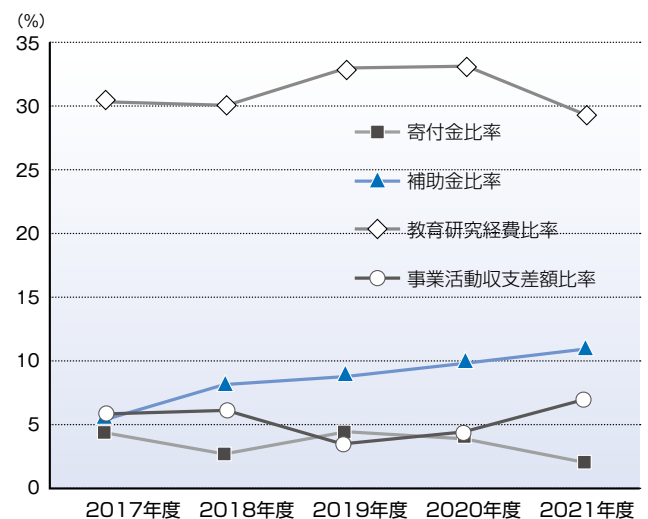
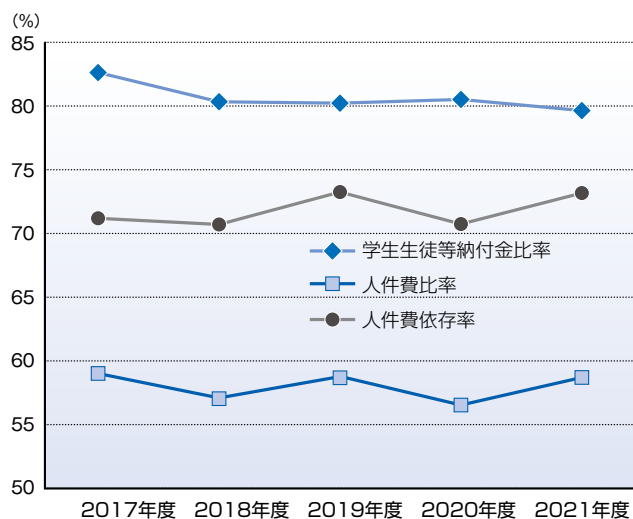
## 4. 財務の概要

### ■ 事業活動収支計算書関係比率

(単位：％)

| 財務比率       | 算出方法                                           | ※評価 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|------------|------------------------------------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人件費比率      | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$               | ▼   | 59.0   | 57.0   | 58.4   | 56.7   | 58.1   |
| 人件費依存率     | $\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$           | ▼   | 71.3   | 70.8   | 72.8   | 70.5   | 73.3   |
| 教育研究経費比率   | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$            | △   | 30.4   | 30.1   | 32.5   | 32.7   | 29.2   |
| 管理経費比率     | $\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$              | ▼   | 6.8    | 5.4    | 5.6    | 5.8    | 5.9    |
| 借入金等利息比率   | $\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$            | ▼   | 0.2    | 0.3    | 0.3    | 0.2    | 0.2    |
| 事業活動収支差額比率 | $\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$   | △   | 5.9    | 6.1    | 3.2    | 4.3    | 6.4    |
| 基本金組入後収支比率 | $\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$ | ▼   | 101.7  | 102.3  | 105.3  | 102.3  | 99.2   |
| 学生生徒等納付金比率 | $\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$          | ～   | 82.7   | 80.4   | 80.3   | 80.5   | 79.2   |
| 寄付金比率      | $\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$             | △   | 4.4    | 2.6    | 4.3    | 4.0    | 2.3    |
| 経常寄付金比率    | $\frac{\text{教育活動収入・寄付金}}{\text{経常収入}}$        | △   | 1.7    | 2.0    | 2.9    | 1.7    | 2.1    |
| 補助金比率      | $\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$             | △   | 5.5    | 8.1    | 8.7    | 10.0   | 10.9   |
| 経常補助金比率    | $\frac{\text{教育活動収入・補助金}}{\text{経常収入}}$        | △   | 5.6    | 8.1    | 8.7    | 10.4   | 10.9   |
| 基本金組入率     | $\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$          | △   | 7.5    | 8.2    | 8.1    | 6.4    | 5.6    |
| 減価償却額比率    | $\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$             | ～   | 9.4    | 9.8    | 10.7   | 11.1   | 11.4   |
| 経常収支差額比率   | $\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$            | △   | 3.6    | 7.2    | 3.2    | 4.6    | 6.6    |
| 教育活動収支差額比率 | $\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$       | △   | 2.4    | 6.3    | 2.2    | 3.9    | 6.1    |

※評価 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらとも言えない  
 経常収入＝教育活動収入計＋教育活動外収入計 経常支出＝教育活動支出計＋教育活動外支出計



## ■ 貸借対照表関係比率

(単位：%)

| 財務比率       | 算出方法                                            | ※評価 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|------------|-------------------------------------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|
| 固定資産構成比率   | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$                | ▼   | 76.8   | 76.8   | 76.5   | 75.4   | 73.6   |
| 流動資産構成比率   | $\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$                | △   | 23.2   | 23.2   | 23.5   | 24.6   | 26.4   |
| 固定負債構成比率   | $\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$   | ▼   | 8.4    | 9.8    | 9.2    | 8.6    | 8.0    |
| 流動負債構成比率   | $\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$   | ▼   | 5.7    | 5.0    | 5.4    | 5.7    | 5.8    |
| 純資産構成比率    | $\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$    | △   | 85.8   | 85.3   | 85.5   | 85.7   | 86.2   |
| 繰越収支差額構成比率 | $\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$ | △   | △ 14.7 | △ 14.8 | △ 15.8 | △ 16.1 | △ 15.8 |
| 固定比率       | $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$                | ▼   | 89.5   | 90.1   | 89.5   | 88.0   | 85.3   |
| 流動比率       | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$               | △   | 404.2  | 468.5  | 439.6  | 430.9  | 452.7  |
| 総負債比率      | $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$                 | ▼   | 14.2   | 14.7   | 14.5   | 14.3   | 13.8   |
| 負債比率       | $\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$                 | ▼   | 16.5   | 17.3   | 17.0   | 16.7   | 16.0   |
| 前受金保有率     | $\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$                | △   | 287.8  | 369.2  | 469.9  | 459.9  | 449.1  |
| 基本金比率      | $\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$             | △   | 94.6   | 93.7   | 93.9   | 94.6   | 95.0   |
| 積立率        | $\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$               | △   | 74.0   | 73.5   | 71.1   | 72.7   | 74.5   |

※評価 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらとも言えない

総資産＝総負債＋基本金＋繰越収支差額 純資産（自己資金）＝基本金＋繰越収支差額 運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋第2号基本金＋第3号基本金

